

2024年度事業報告書

自 2024年4月 1日
至 2025年3月31日

一般社団法人東京国際金融機構

目次

1. 当法人の現況に関する事項 4

- 法人概要 5
- 主要事業の経過及びその成果 6
- 主要事業
 - 概略 9
 - 海外プロモーション 10
 - 海外メディアを活用した認知度向上施策実施事業 27
 - 英文情報開示支援事業(Disclosure G) 31
 - ABAC東京会合 35
 - ABAC Sustainable Finance Seminar , FinCity Global Forum 2025 38
 - 金融系外国企業発掘誘致事業(Attraction U) 44
 - 金融系外国企業ネットワーク事業 45
 - Emerging Managers Program 47
 - 政策提言活動 60
 - Tokyo Sustainable Finance Week実施事業 70
 - 都民向け金融セミナー実施事業 73

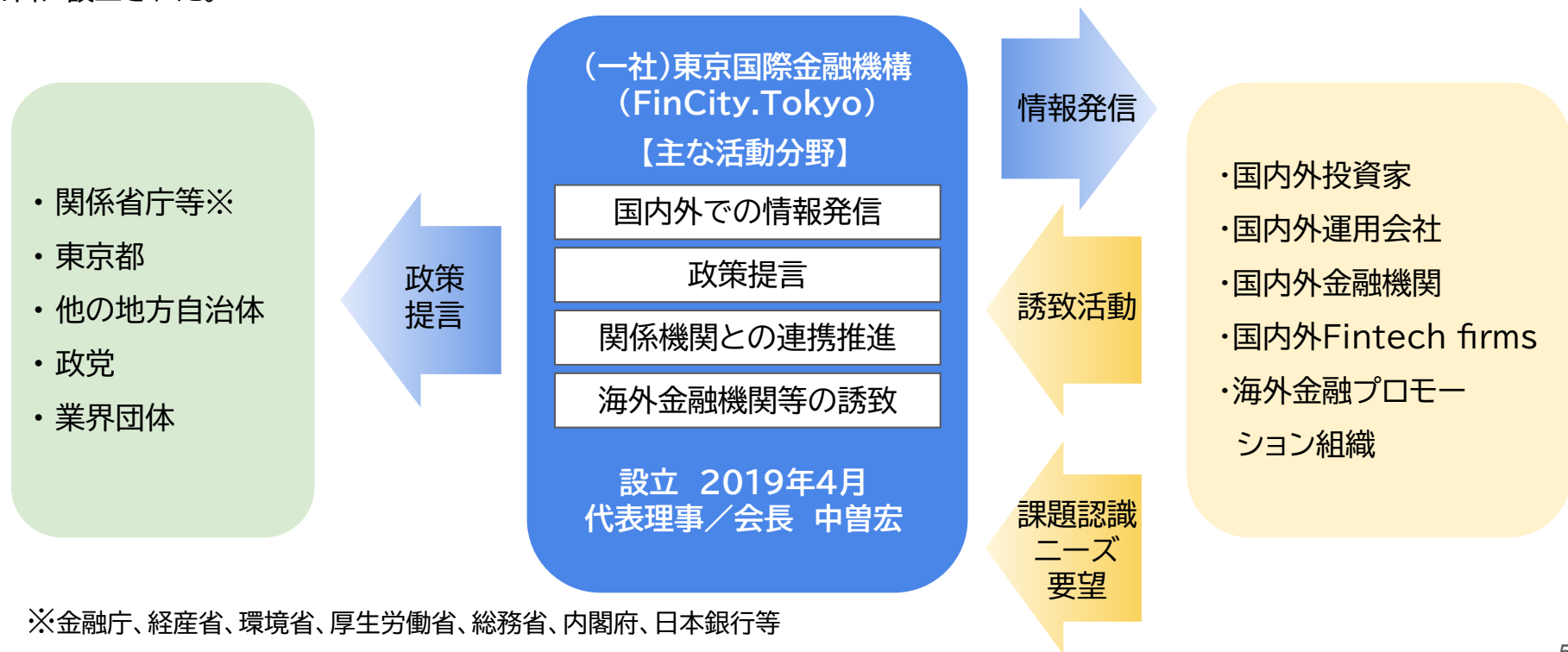
目次

- その他の活動
 - 代表理事の主な活動 77
 - 専務理事の主な活動 78
 - WAIFC(World Alliance of International Financial Centers)への対応 79
 - 国内金融都市との連携等 83
 - イベントへの登壇等 84
 - 東京都との共同推進プロジェクト 86
 - SusHi Tech Tokyo 2025 セッション登壇の検討 93
- 組織の安定経営に向けた体制整備等 94
- 重要な契約に関する事項 96
- 会員に関する事項 97
- 職員に関する事項 101
- 役員会等に関する事項 102
- 対処すべき主な課題 106
- 2. 役員に関する事項 107
 - 役員に関する事項 108
 - 退任した役員 110
 - 役員の報酬等 111
- 3. 業務の適正を確保するための体制等の整備についての決議内容の概要 112

1. 当法人の現況に関する事項

法人概要

一般社団法人東京国際金融機構(英文ではThe Organization of Global Financial City Tokyo、略称FinCity.Tokyoであり、以下、当法人)は、東京の金融市場としての魅力を高め、世界トップクラスの国際金融都市とすることを目的とし、2019年4月1日に設立された。



※金融庁、経産省、環境省、厚生労働省、総務省、内閣府、日本銀行等

2024年度は、当法人の第二次中期事業計画(2024年度～2026年度)の初年度にあたり、「国際金融都市・東京」の実現に向け、「基盤構築フェーズ」から「実行フェーズ」へ移行した一年であった。事務局の体制を強化するとともに、会員企業、東京都等との連携の下、国内外への情報発信、金融事業者等の新規参入の促進等、社会課題解決のための金融(政策提言・金融教育の推進)などに取り組んだ。

【国内外への情報発信】

- 海外ロードショーを8回実施した。主要金融都市(11か所)において独自イベント開催等のプロモーションを展開し、金融関係者とのネットワーク構築、当法人の認知度向上等に取り組んだ。今後もこれまでに得た知見や関係性を活用し、当法人の実施する事業への還元、会員勧誘等を図っていく。
- 海外メディアを活用した認知度向上施策実施事業においては、欧州専門誌やBloombergTV出演等、これまでにないメディア媒体での取材・露出が増加した。今後は海外ロードショーの機会を捉えた取材やラウンドテーブルを企画するなど、他事業との相乗効果を高め一体的なPRを行っていく。
- 英文情報開示支援事業(Disclosure G)においては、当初計画通り着実に個別支援を実施したほか、人材育成講座、ワークショップでも活発な議論が行われた。今後は支援企業への投資の呼び込みなど、目に見える成果に繋げるため、国内外投資家への更なる訴求を図っていく。

【金融事業者の新規参入の促進等】

- 金融系外国企業発掘誘致事業(Attraction U)においては、支援の結果、一定の資産運用残高規模を持った海外資産運用会社等が東京進出を果たした。今後さらに本事業の認知度を高め、金融エコシステムの高度化に資する質の高い企業の発掘・誘致につなげていく。
- 金融系外国企業ネットワーク事業においては、今年度もネットワーキングイベントを開催し、登壇企業1社あたり5社のビジネスマッチングを達成した。その結果、NDA締結5社6件の成果が上がっている。今後もNDA締結を含めた事業化に向けて継続的なサポートを実施していく。
- EMPの普及促進事業においては、当初計画通り着実に個別支援を実施したほか、人材育成講座、ワークショップでも活発な議論が行われた。今後は支援企業への投資の呼び込みなど、目に見える成果に繋げるため、国内外投資家への更なる訴求を図っていく。

【社会課題解決のための金融(政策提言・金融教育の推進)】

- 政策当局者等と個別に面談し、国際金融都市構想の意義を説明するとともに、そのために必要な諸課題についての政策提言を行った。また、継続的な連携強化について確認した。

【社会課題解決のための金融(政策提言・金融教育の推進)】

- Tokyo Sustainable Finance Week実施事業においては、サステナブルファイナンスフォーラム及び中堅・中小企業向けセミナーを実施し、昨年度より多くの参加者を得た。今後も時機に応じたテーマの発信を通じ、同分野における取組の機運醸成、当法人の認知度向上、会員企業の登壇促進等に取り組んでいく。
- 都民向け金融セミナー実施事業においては、若者向けセミナー、高齢者向けセミナーを実施した。若者向けセミナーでは集客に課題が残ったことから、今後は既存セミナーと競合せず、より一層学びを深められる内容を検討していく。

民間の知見・ノウハウの活用が求められる取組み(プロモーション、業界の意見抽出など)を機動的に実施

『国際金融都市・東京』構想(2017年11月東京都)

目指す都市像

- ・アジアの金融ハブ
- ・金融人材・資金・情報・技術が集積
- ・資産運用業とフィンテック企業の発展に焦点
- ・社会的課題の解決に貢献

『国際金融都市・東京』構想 2.0(2021年11月東京都) サステナブル・リカバリーを実現し、世界をリードする国際金融都市へ

- ①社会的課題の解決に貢献する分厚い金融市場の構築
- ②フィンテックの活用等による金融のデジタルイノベーション
- ③資産運用業者をはじめとする多様な金融関連プレイヤーの集積

FinCity.Tokyoは、「国際金融都市」の実現に向けて、民間の知見・ノウハウを活かして貢献し、行政主体としての都と協働するパートナー

推進者:官民連携組織(FinCity.Tokyo)

【取組方針】

都・国と連携した資産運用立国の実現への貢献

1. 国内外への情報発信

- ・海外ロードショー
- ・海外メディアを活用した認知度向上施策実施事業
- ・英文情報開示支援事業(Disclosure G)

2. 金融事業者等の新規参入の促進等

- ・金融系外国企業発掘誘致事業(Attraction U)
- ・金融系外国企業ネットワーク事業
- ・EMPの普及促進事業

3. 社会課題解決のための金融

- ・政策提言
- ・Tokyo Sustainable Finance Week実施事業
- ・都民向け金融セミナー実施事業

海外プロモーション

主な成果

- 各金融イベントへ登壇し、東京の魅力・取組を海外投資家、資産運用事業者、Fintech関係者等に発信。企業誘致等とともに、Family Officeとの接点及び次年度イベントに向けての関係構築

訪問先	香港	ニューヨーク、トロント	パリ	シンガポール
期 間	4/15-19	6/10-25	9/9-13	11/7-19
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> ABAC香港に参加、東京(8月)に向けた議論 Bloombergとイベント共催 	<ul style="list-style-type: none"> 機関投資家向けラウンドテーブル開催(ニューヨーク・トロント) 個社訪問 	<ul style="list-style-type: none"> 「IPEM Paris」参加し、ブース出展やパネルディスカッション登壇 	<ul style="list-style-type: none"> iConnections Asia ブース出展・パネル登壇 FGF in SG主催(LSEGとの共催)

訪問先	ドバイ、アブダビ	ロンドン	マイアミ、ニューヨーク、シカゴ、サンフランシスコ	
期 間	12/4-10	1/31-2/6	1/27-2/7	3/3-7
主な活動	サステナブルファイナンス関連イベント登壇 <small>(Future Sustainability Forum)</small>	FinTech RT開催 日英ビジネス RT登壇 個社訪問(FinTech、AM)	<ul style="list-style-type: none"> iConnections Miamiブース出展及びパネル登壇 Investor roundtable in NY主催 個社訪問(主にAO、AM) 	

Purposes

- Bloomberg香港オフィスと共催するJapan SessionのイベントやAsia Asset Management誌が現地で主催するイベントに登壇、また、Asia Asset ManagementやBloomberg、ABAC関係者などの諸団体との面会を行いプロモーション活動を実施。
- 東京進出に関心がある企業等との個社訪問(10社予定)を通じ、資産運用業者等の誘致活動を実施。
- ABAC香港会議を視察し、東京会議開催に向けた下準備を行う。

Schedule

	April 15th	April 16th		April 17th		April 18th	April 19th
AM	Andar Capital面会	DeShaw面会 AlgoGene面会		Lemanik AM面会 LeapStack面会		MS Conference WebCast/ Recording	Shinka Capital 面会
PM	Enfusion面会	Chartwell Capital 面会	HIG capital 面会	Bloomber g Event	Hillhouse 面会	Asia Asset Management Event	End

香港ロードショー (4/15-4/19) 2/2

- 4月17日にBloombergと共催したイベント(Buysideを対象)では98名参加(内87名が実参加)するなど高い関心が見て取れた。
- また、同イベントをきっかけに接触したDBS Bankにフォローアップしたところ、FCTへの会員加入の意思を表明した。
- 4月18日のAsia Asset Management誌のイベント("Best of the Best" awards)では、有友圭一専務理事がAsset Management Leader Awardを受賞。また三井住友トラスト・アセットマネジメント社の菱田賀夫CEOがLife Time Contribution Awardを受賞した。
- 同イベントでBest Performing Robo Advisor部門を受賞したEndowus社(シリーズC・評価額154MM)に接触したところ、FCTの誘致サポートプログラムへの申し込み表明があった。



Asia Asset Management誌イベント



Bloomberg共催イベント

個社訪問など



Chartwell



Leapstack



Enfusion



Morgan Stanley社 Podcast登壇



Lemanik

Purposes

- 個社訪問を通じ、資産運用業者等の誘致活動を行う。
- 投資家ラウンドテーブル開催を通じ、日本への投資に対する関心・課題感を把握する。
- 現地運用会社と接点がありそうな会員企業NY拠点に誘致事業等FCTの活動について共有し、今後の連携可能性を探る。

Schedule

June 10-14 (New York)	June 17/18 (Toronto)	June 20/21 (Boston)	June 24-26 (New York)
誘致開拓のための個社訪問 (12社) 会員企業NY拠点訪問(4社) Investors Roundtable 開催 在NY日本総領事館との 意見交換	公的年金基金との面談 (2基金) Investors Roundtableの 開催 在トロント日本総領事との 意見交換 東京進出済現地フィンテック 企業との面談	フィンテック・アクセラレーター との面談(2団体) 公的年金基金との面談 フィンテック企業(1社)、 資産運用会社(5社)との面談	資産運用会社(3社)、 ファミリーオフィス(1社)、 フィンテック企業(1社)との 面談

北米ロードショー (6/10-6/25) 2/2

- ニューヨーク及びトロントのInvestors Roundtableでは海外機関投資家の日本市場への見方、対日投資に対して感じている課題等のフィードバックを聴取することができた。特にトロントでは現地基金の中国離れとそれに伴うアジア代替拠点も話題となったが、日本がインドに比べて発信のアグレッシブさで劣る点を指摘され対外発信の重要性を再認識した。
- 日本の資本市場の改革には好意的な評価が得られた一方、デフレの終焉については比較的注視が必要と慎重な見方。
- 今回のラウンドテーブル集客活動を通して、カナダの主要年金基金(CPPIB, OTPP, OMERS, IMCO, HOOPP, OPTrust, CDPQ)とダイレクトな接点を作ることができた。
- 日本未進出21社と面談を行ったうち、3社が今後発掘誘致事業の伴走支援に申し込みを行う見込み。その他、日本での事業進捗次第で2社程度が将来的に伴走支援を申請すると見込まれる。
- 米国の4公的年金基金とアセットオーナー・サーベイを行うことができた。
- 今回接点をもった誘致候補企業との継続的なフォローアップを実施し、適切なタイミングでAttraction U支援へと繋げてゆく。年金基金の東京進出の実現可能性は低いが、日本における新しい投資機会について継続して発信してゆく。



Investors Roundtable (in トロント)



Investors Roundtable (in NY)

個社訪問



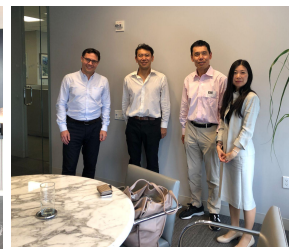
Alliance Bernstein社 Chief AI Officer



Epoch Capital社



Ontario Teachers Pension Plan
Copyright©2025 FinCity.Tokyo all reserved



Tiger Pacific Capital社



KBRA社

パリロードショー (9/9-9/13) 1/2

Purposes

- プライベートエクイティカンファレンスIPEMにおけるFCTブース出展、ならびにプライベートエクイティ協会(JPEA)との連携によるJapan Sessionの開催。
- 個社訪問を通じ、フィンテック・資産運用業者等の誘致活動を行う。

Key Targets for meet-up

- IPEMに出展する欧州系PE
- フランス系運用会社、フィンテック企業

Schedule

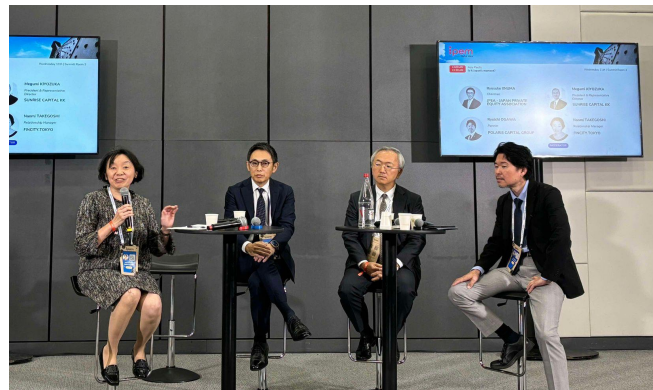
Sept 9, Mon	Sept 10, Tues	Sept 11 Weds	Sept 12 Thurs	Sept 13 Fri
個社訪問 Unigestion社主催の Emerging Managers Conference参加 フランスの運用業界団 体AFGとの面談	IPEM出展	IPEM出展 Japan Session	個社訪問 パリのEMPにシーディ ングするCaisse de Depotと運営する Emergenceへの ヒアリング	個社訪問 フィンテック団体である Finance Innovation、パリの プロモーション組織 Paris Europlace との面談

パリロードショー(9/9-9/13) 2/2

- IPEM主催者から先進国主要市場における資金調達が停滞する中で日本のPE市場(資金調達、投資)への関心の高まりを受け、無料でのブース出展、Japan Session開催のオファーを受けての参加。
- 欧州系ファンドの投資家向け営業担当者が多く集まるカンファレンスだったため、FCTのターゲットとは若干ミスマッチがあったが、30近くのGPと接触し、対日関心についてサウンディングすることができた。
- Japan Sessionについては、直前の枠で開催していたChina Sessionから退場した参加者はおらず、むしろ入場者がおり、会場は満員(70名程度)となった。
- 日本のマイクロキャップ企業への投資に関心が高いJolt Capitalと接点を構築(出張後、同社の日本におけるエクスポージャー拡大を支援中)
- フランスEMPのGatekeeperを務めるNewAlpha Asset Management社との意見交換を実施。同社によるTAMFへの登壇を実現し、EMPの先進事例について日本の投資家にプレゼンしていただいた。



IPEMへの出展



Japan Sessionの様子



フライヤー

シンガポールロードショー (11/7-11/19) 1/2

Main Purposes

- Global 機関投資家が集積するカンファレンス "Global Alts Asia"に参加し、日本の金融市場モメンタム発信を目的にJapan Panel Discussionを企画、有友専務理事が登壇
- 「How to make Japan more investable」をテーマに、シンガポールで初めて資産運用領域に特化した独自イベント「FGF in SG」をLSEGとの共催にて開催。

Key Targets for meet-up

- アジアベースのFamily Office (FO)を中心とした海外AO, 海外AM
- FOコミュニティ運営者

Schedule

Thu Nov 7th - 8th	Mon Nov 11th-13th	Mon Nov 14th	Mon Nov 15th, 18th	Mon Nov 19th
Singapore FinTech Festivalへの参加	Global Alts Asiaへの参加、登壇 個社訪問	FGF in SG主催 個社訪問	個社訪問	JPX主催 「Japan-Southeast Asia Market Forum」への参加

シンガポールロードショー (11/7-11/19) 2/2

- FGF in SGの参加者は約60名。(申込者数が会場Capacityを超えたため、申込を早期に締め切った。)
 - FO関連のセッションを組み込んだことで、多くのFO参加者を迎え、FCTにとって貴重なネットワーキングの機会となった。
- Global Alts AsiaのFCTブースには「日本への投資・日本進出を検討している」ファミリーオフィスや運用会社が訪れミーティングを行った。
 - Japan Panel Sessionは会場参加者40名程度。[オンライン](#)での視聴も可能。
 - 登壇者のみのExclusiveなネットワーキングの場もセットされ、Asset owner等との接点の構築を拡大
- SFFについては、資金移動、決済企業の出展が中心となっており、Crypt及びESGエリアは前年度より縮小傾向。誘致対象企業の発掘のためブース出展企業へ声掛けを行った。また、支援企業へのフォローアップを実施した。
- FOコミュニティを運営するWealth Management Instituteとコラボレーションイベント(日本への投資をテーマとしたFO向けセミナー)の開催可能性について意見交換を行った。
- JPXイベントについて、参加者は、日本への投資に関心のあるFOなどの投資家为中心であり、FOとの接点の構築を拡大



Global Alts Asia



FGF in SG



SFF



JPX event

ドバイ・アブダビロードショー (12/4-12/10) 1/2

Purposes

- 「Future Sustainability Forum」に参加し、参加者とのネットワーキングを実施する
- DIFCやADGM等を訪問。中東エコシステムへの理解を深め、今後のロードショーの足掛かりとする
- 個社訪問を通じ、資産運用業者等の誘致活動を行う
- Japan Sessionの開催を通じて、日本の金融市場の魅力発信につなげる

Key Targets for meet-up

- 東京進出に関心がある企業等(Lulu)
- Abu Dhabi Investment OfficeおよびHub71
- ドバイ総領事館、UAE投資庁

Schedule

Dec 4 Wed	Dec 5 Thu	Dec 6 Fri	Dec 7-8	Dec 9 Mon	Dec 10 Tues
Future Sustainability Forum 参加	Future Sustainability Forum Japan Session開催 (パネルディスカッション形式)	DIFC等個社訪問 アブダビ移動	週末	個社訪問 (ADIO)	Abu Dhabi Finance Week 参加

主な成果

- 現地機関と日本の関係者との関係を構築(例:Hub71ーFINOLABの紹介、ADIOおよび連邦投資省とFCTの連携)。
- ドバイで開催された「Future Sustainability Forum」への登壇を通じ、東京の金融エコシステムからの目線による発信を実施

課題

- 現地の金融エコシステムは迫力があるが、そこに入り込んでいくための強い地縁をつくるには、継続的かつ頻繁な来訪が必要であり、短期に関係構築を図ることは難しいのではないかと。
- 現地で開催されるの主要なイベント(例:ADFW)などに継続的に登壇する機会を得るなど、FCTの認知を拡大するための取組が必要

Future Sustainability Forumへ2回登壇



個社訪問およびネットワーキングの様子



UAE投資省への訪問(ドバイ)



野村インターナショナル訪問(ドバイ)



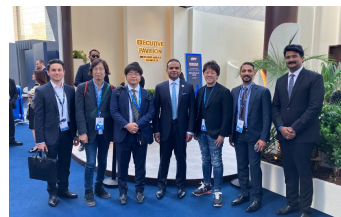
Abu Dhabi Investment Office訪問(アブダビ)



Lulu Holdings訪問(アブダビ)



Hub 71訪問(アブダビ)



ADFWへの参加(アブダビ)

Purposes

- 7月実施予定のロードショーの為のパートナーを洗い出し、連携を打診
- 個社訪問を通じ、具体的な誘致活動を行う
- TMG-CoLセミナーでの参加などイベント参加を通じネットワーキングを拡大
- FinTechに関するラウンドテーブルを実施。現地FinTechの対日進出意欲喚起に取り組む

Key Targets for meet-up

- GFANZやCoL等、トランジションファイナンスの分野で連携候補となる企業
- 対日進出への関心がある個社
- Bloombergやクレアブ等、現地イベント支援や共催、ロジ支援に関心のある企業

Schedule

1/31 Fri	2/1 Sat	2/2 Sun	2/3 Mon	2/4 Tue	2/5 Wed	2/6 Thu
日英Business RT 個社訪問			個別訪問 セミナー準備	FinTechRT主催 TMGセミナー出席 個社訪問	個社訪問	個社訪問

ロンドンロードショー (1/31-2/6) 2/2

主な成果

- 日英金融当局者協議に併せて実施されたラウンドテーブルに参加。FCTの活動紹介、トランジションファイナンスに関する日英連携フォーラムの開催を提案
- TMG-CoLセミナーへ参加。次回ロードショーに向け、関係機関とのリレーション構築に繋がった。
- FinTechラウンドテーブルを開催。日本でのビジネスに関心を持つ英国フィンテック企業及び投資先にフィンテック企業を持つ現地VCを招き、日本市場についての最新事情(オープンバンキングの進捗、フィンテック業界におけるM&Aの状況など)を議論し、東京進出を呼びかけ。
- 現地金融関係者、英国企業に対し東京進出呼びかけのため個別訪問を実施
- City of Londonが発表したトランジションファイナンスのレビューについて意見交換し、今後、日英連携をさらに深めていくことで一致



ビジネスラウンドテーブル



Fintechラウンドテーブル

課題

- トランジションファイナンスにおける日英(東京・ロンドン)での協力関係は未だ発展途上であり、これを更に深めることが必要

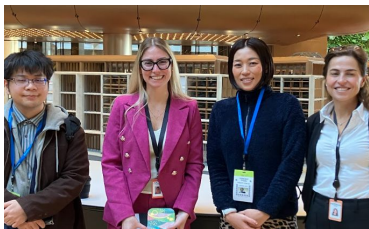
個社訪問およびネットワーキングの様子



Kreab London訪問



City UK 訪問



Bloomberg訪問



GFANZ訪問



TMG-CoLセミナーの様子

1. 1/27(月)-1/31(金) Miami

- Global 機関投資家が集積するカンファレンス "Global Alts Miami"に参加し、日本の金融市場モメンタム発信を目的に **Japan Panel Discussion**を企画、**有友専務理事が登壇**
- FCT **ブースを出展**し、誘致対象となる資産運用業者や、海外アセットオーナーとの接点を構築

2. 2/3(月)-2/7(金) New York、Chicago

- 米国を本拠とする機関投資家等を訪問し、東京への誘致や国内EMとのマッチングを図る。

3. 3/3(月)-3/7(金) New York、San Fransisco

- 米国を本拠とする機関投資家等を訪問し、東京への誘致や国内EMとのマッチングを図る。
- 「How to make Japan more investable」をテーマに、機関投資家からfeedbackを得ることを目的に「Investor Roundtable in NY」を企画・主催 (3/4)



Global Alts Miami
Japan Panel Discussion
(2025.1.29)



個別会社訪問 (2025.2.6)



個別会社訪問 (2025.3.3)



Investor Roundtable in NY(2025.3.4)



- 海外アセットオーナー(AO)、AOコミュニティとの接点構築・強化
 - EMとの個別マッチングイベントに2社を招待することに成功
 - AsiaのFamily Office Community(USベース)と2月に接点を構築、3月にNYで主催した「Investor Roundtable in NY」にも参加いただいた。
- 誘致対象先との接点構築、新規エリア開拓
 - Eldridge IndustriesのCEOのTodd Boehly氏と接点構築し、日本の投資環境について意見交換を実施。
 - 3/17の週におけるBoehly氏の来日時での会議のアレンジメント等をFCTで支援。
 - Chicago Teachers' Pension Fundに「Chicagoベースの資産運用会社の日本誘致」の協力を依頼。現在、同社による、Chicagoの誘致対象先候補の抽出作業中であり、Chicago開拓の足掛かりとする。
- 「Japan Panel Discussion」
 - iConnections Global Alts Miamiで企画。会場120名が満員となり、終了後、多くの聴講者がFCTブースに来訪 ([アーカイブ動画](#)視聴可能)



登壇者：

- Naoya SUGIMOTO, CoCIO (Japan Science and Technology Agency)
- Shigeru TAMAKI, Investment Director (Pension Fund of Japanese Corporations)
- Junji Takaoka, Incubation Partner (UTokyo IPC)
- David Semaya, Executive Chairman & Representative Director (Sumitomo Mitsui Trust Asset Management), and FCT Ambassador
- Moderator: Keiichi Aritomo, Executive Director(FinCity.Tokyo)

Key quotes

- 「米中関係の地政学リスクを受け、投資先国のリバランスを検討しており、日本への関心は高まっている」
- 「これまでunderweightだった日本については、コーポレートガバナンス強化による企業再編の可能性に注目し、投資割合を増加させることを検討中」*
- 「企業再編を後押しするファンド(Growth Equityやバイアウトファンド)へのアロケーションを検討している。」
- 「一昨年実施したNYでのFCTイベント(FGF in NY)は、次はいつ実施するのか。前はととても有意義だった」
- 「日本の資産運用特区の取組は、今どうなっているのか。」
- 「Monetary Authority of Singapore(MAS)のNY Branchは、現地投資家ネットワークの拡大と業界動向の把握を目的としている。東京都の共同イベントには関心がある」
- 「Ground Breaking Fintechは近年、世界的にほとんどない」

*San Francisco Employees' Retirement Systemは、日本向けの新しいアロケーション枠の設置を検討中

- SF Downtownでhomelessが多い(夜に出歩くのは危険)
- Officeの空室が多い
- VC投資の熱は冷めているように思える
- DEIに対する姿勢は慎重になっている
- Fintechへの期待もあまり強くない
- Trump政権への不安もあり、日本の政治的安定性に関心が高まっている

Montgomery
Street in San
Francisco



- University of California Investments (AuM = \$180B)
- San Francisco Employees' Retirement System (AuM = \$36B)
- CIO of West Fork/ Board Member of iCapital
- Livefreely (Healthtech/ Insuretech) which acquired Sompō Horizen
- Chan Zuckerberg Initiative
- Makena Capital (AUM = \$22B) which was spun out of Stanford Endowment

主な成果

- **記事広告作成を依頼する媒体を充実**させ、多様な読者にリーチ
- FCT事業終了後に取材を設定するなど、他事業との連携を拡大
- 加えて、今年はBloomberg TVの出演など**登場媒体を拡大**
 - 記事広告
昨年度:ロイターのみ → **ロイター**(英国)、**sifted**(英国)、**strait times**(SG)
 - 取材記事・メディア露出
昨年度:記事14本 → **記事14本** + **TV出演3本**

課題

- 海外主要メディアと**より直接的な接点**を持ち、露出を増やしていくことが必要

○2025年度に向けて

FCT海外ロードショーとの連携(現地記者との面談や現地でのラウンドテーブル開催など)強化を図る



Bloomberg TV出演

Published: February 13, 2025

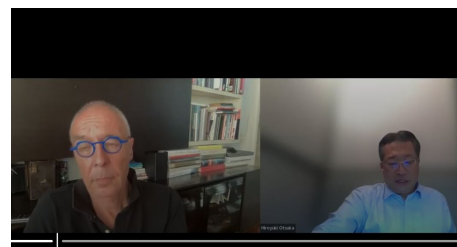
Charting a Sustainable Financial Future for Tokyo and Japan

A pair of panels featuring leading policymakers, industry leaders, and international experts at the FinCity.Tokyo Global Forum 2025 event at the end of January explored Tokyo's future as a finance hub and Japan's commitment to green transformation (GX). The discussions underscored Tokyo's ambitions, challenges, and strategies for leveraging finance to shape a sustainable and prosperous future.

FGFの記事広告(ロイター)

ラウンドテーブルについて

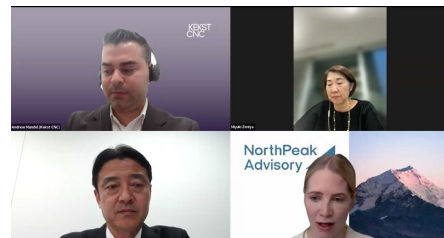
- 記者とのコミュニケーションを目的としたラウンドテーブルを年3回実施
 - 第1回: Japan Market Outlook: Impact of this year's "Big-Boned Policy"
 - 登壇者: 大塚 博行氏(ジャパン・アクティベーション・キャピタル社)、イエスパー・コール氏(FinCity.Tokyoアンバサダー)
 - 参加者: 5媒体含め11名参加。
 - 第2回: Sustainable Finance in Japan: Accelerating the Green Transformation
 - 登壇者: 池田賢志氏(金融庁 チーフ・サステナブル・オフィサー)、小野塚恵美氏(エミネントグループ株式会社 代表取締役社長兼CEO)
 - 参加者: 7媒体含め9名参加。
 - 第4回: Sustainable Finance Frontiers: Advancing ESG in an Era of Growing Regionalism(※第3回は登壇者都合によりキャンセル)
 - 登壇者: 高田英樹氏(GX推進機構 理事)、Petra Dismorr氏(NorthPeak Advisory CEO)、銭谷美幸氏(MUFG CSO)
 - 参加者: 9媒体含め23名参加



ラウンドテーブルの様子①



ラウンドテーブルの様子②



ラウンドテーブルの様子③

記事化が実現した媒体一覧(放送媒体を含む)

No.	媒体名	対応・引用者	発出記事(番組)
1	The Business Times	イエスパー・コール	Japan's stock market revival could hold lessons for Singapore despite fundamental differences
2	Reuters Breaking Views	イエスパー・コール	Riches of Japan wealth push will be thinly spread
3	I by IMD	FCT事務局	Japan is the new darling of global investors – Is it warranted?
4	Reuters Breaking Views	イエスパー・コール	Japan's virtuous M&A circle starts with 7-Eleven
5	JAPAN MARKT	有友 圭一 FCT専務理事	Global investors home in on the rapidly evolving landscape of Japan's dynamic financial market
6	Boersenzeitung	有友 圭一 FCT専務理事	Aktivisten und Private Equity mischen Japan auf
7	Bloomberg TV	有友 圭一 FCT専務理事	Japan Ahead
8	Bloomberg TV	池田賢志氏 (□融庁 チーフ・サステナブル・オフィサー)	Bloomberg Green
9	Asia Times	有友 圭一 FCT専務理事	Western private equity firms return to Japan

記事化が実現した媒体一覧(放送媒体を含む)

No.	媒体名	対応・引用者	発出記事(番組)
10	Bloomberg TV	デビッド・セマイヤ FCTアンバサダー	Japan Ahead
11	Nikkei Asia	阪口 和子 FCT理事	AllianceBernstein Japan chief says nation could become a key financial hub
12	Bloomberg	高田 英樹 GX推進機構理事	トランプ米大統領、上下両院合同会議で演説
13	Bloomberg	ありあけキャピタル社(FCT紹介)	Ex-Goldman Analyst's Hedge Fund Reaps 300% on Small Japan Banks (英) ゴールドマン出身者のヘッジファンド、地銀投資で3年収益は300%に (日)
14	Regulation Asia	池田 賢志 金融庁CSO	Japan's Sustainability Disclosure Rules Strike 'Good Balance' Amid ESG Shift
15*	Global Finance	石田 英和 FCTシニアアドバイザー	Balancing AI Hype And Practical Innovation
16*	Tokyo Updates	イエスパー・コール FCTアンバサダー	FinCity.Tokyo Discussion and Jesper Koll: Guiding Japan's Financial Future ※日本語版も掲載予定
17*	Tokyo Updates	中曾 宏 FCT代表理事	特集記事

英文情報開示支援事業(Disclosure G) 1/4

- 東京市場の魅力向上のため英文開示実施率の向上と上場会社のIRスキルアップを目指す事業
- 個別支援、英文IR人材育成講座、英文IRワークショップを実施

主な成果

- **15**社への支援を実施
昨年度より英訳ニーズが高く、有価証券報告書も**5**社以上支援
- 英文IR人材育成講座(2日間開催、**1,230**人参加)、
英文IRワークショップ(2回開催、**102**人参加)を開催
- IR担当者同士のネットワーク構築、知見の共有を促進

課題

- **支援後企業の成果にばらつき**
- **投資家との接点構築**、企業へのエクイティストーリー構築時の**エンゲージメント**
- 支援終了後企業の**効果測定**



英文IR人材育成講座の様子
(2024年10月)



英文IRワークショップの様子
(2025年1月)

○2025年度に向けて

IRの高度化により意欲が高い企業の発掘が必要。また、実際の投資家との接点構築までは支援できていないため、海外ロードショーやイベント等での支援を企画していく。

1 個別支援

- 東京証券取引所のグロース市場又はスタンダード市場に上場している企業のうち、海外投資家へのIRやグローバル市場への事業展開に意欲を持つ15社を選定し、以下の支援を実施しました。(株式会社日本取引所グループ及び株式会社東京証券取引所後援)
 - エクイティストーリーの構築支援、決算関連資料の英訳支援、海外投資家とのコミュニケーション支援
- 個別支援実施企業一覧(五十音順)

(株)アゴラホスピタリティグループ、(株)うるる、(株)ギックス、(株)ジーニー、(株)セルム、(株)タスキホールディングス、(株)坪田ラボ、(株)ナレルグループ、(株)VRAIN Solution、Chordia Therapeutics(株)、Japan Eyewear Holdings(株)、トビラシステムズ(株)、トヨクモ(株)、日華化学(株)、ベースフード(株)

2 英文IR人材育成講座(2024年10月)

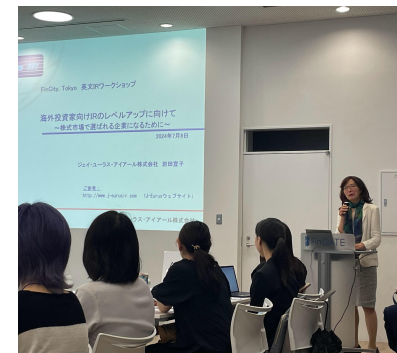
企業の経営陣やIR担当者を対象に、海外IRに取り組みむ為に必要となる情報を発信するセミナー「英文IR人材育成講座」を開催し、海外IRの専門家や翻訳の専門家等が講演。(株式会社日本取引所グループ及び株式会社東京証券取引所と共催)

日 時	【1日目】2024年 10月7日(月)14時~17時 【2日目】2024年 10月8日(火)14時~17時30分
開催形式	ハイブリッド開催(オンライン+会場)
会 場	東証ホール
申込総数	約1,600名(うち参加総数:約1,300名)
主なコンテンツ	【1日目】パネルディスカッション(今年度個別支援企業の登壇)、海外投資家の視点で日本企業のIRに求めること 【2日目】東証の方針、グローバル投資家との対話における留意点、東証プライム上場企業によるパネルディスカッション
アーカイブ・詳細	https://fincity.tokyo/events/2373/

3 英文IRワークショップ

企業のIR担当者を対象に、海外IRに取り組む為に必要となる情報や心構えを発信し、IR担当者同士のネットワークを作る「英文IRワークショップ」を開催し、海外IRの専門家が講演。(株式会社日本取引所グループ及び株式会社東京証券取引所が後援)

日時	【1回目】2024年 7月8日 17:00~19:10 【2回目】2025年 1月8日 第1部:14:30~16:25、 第2部:17:00~19:15
開催形式	ハイブリッド開催(オンライン+会場)
会場	東証ホール
申込総数	104名(うち参加総数:102名)
主なコンテンツ	<p>【1日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外投資家向けIRに必要な視点 <p>【2日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 東証の新たな方針、海外投資家からの評価の紹介 グローバル投資家との対話における留意点 東証プライム上場企業によるパネルディスカッション
詳細	https://fincity.tokyo/events/2373/



4 その他 登壇

QUICK社主催「ESGセミナー「グローバル投資家との新たな会話～英文情報とサステナビリティ情報開示の重要性～」

日程:2024年 7月19日15時～16時15分

形式:オンライン開催(QUICK社セミナールームにて撮影)

登壇者:代表理事 中曾宏「国際金融都市とグローバル投資家との対話を支える開示の重要性」、
マネージャー 東海林美咲「英文情報開示支援事業(Disclosure G)プログラム説明」



7.19(金) 15:00-16:15 / オンライン

参加費無料 / 事前登録制

ESGセミナー

グローバル投資家との新たな対話

英文情報とサステナビリティ情報開示の重要性

東京国際金融機構 (FinCity.Tokyo) 会長 中曾宏 氏



スターティアホールディングス社・ウィルズ社主催「英文開示義務化へのカウントダウン:IR担当者が今から取り組むべき課題と解決策」

日程:2025年 3月19日

形式:オンライン開催

登壇者:事務局次長 大山智子

startiaholdings × WILLS 開催日程:2025年3月19日(水) 12:00~13:00

英文開示義務化へのカウントダウン
IR担当者が今から取り組むべき課題と解決策

概要
IRの英文開示に積極的に取り組まれている日本ライフライン社の江川毅芳様と「国際金融都市・東京」を目指し上場企業の英文開示支援に取り組む東京国際金融機構の大山智子様をお招きし、英文開示の課題と今後について深掘りいたします。

登壇者: 東京国際金融機構 大山 智子, 日本ライフライン 江川 毅芳, ウィルズ 伊藤 祐樹, スターティアホールディングス 平岡 万葉人

主な成果

- APECビジネスビジネス諮問委員会(ABAC)の東京会合に合わせ、ABACアジア地域の脱炭素化に貢献する東京の金融センターを役割を議論するイベント(基調講演、パネルディスカッション)を主催(約100名が参加)
- ABAC関係者、国内外金融関係者を招き、Gala Dinner、ネットワーキングを実施(約200名が参加)

課題

- 単発のイベント実施で終わらせることなく、得られた知見の活用、ABAC関係者等との継続的なネットワーク構築を図るため、フォローアップの取組を検討することが必要

○2025年度に向けて

東京会合で得られた知見を来年度のFCT事業に還元するとともに、海外とも相互運用可能なVCMなど、ABACでの議論を引き続き注視していく。



FCT主催イベント



Gala Dinner

ABAC(APECビジネス諮問委員会)

- 日程:8/1(木)~8/4(日)
- 会場:東京プリンスホテル

	8/1(木)	8/2(金)	8/3(土)	8/4(日)
午前	サイトツアー	オープニング セレモニー	ワーキング グループ	クロージング セレモニー
昼	昼食会	昼食会	昼食会	
午後	チェア ミーティング	ワーキング グループ	FCT主催イベント	
夕食	ウェルカム レセプション	ウェルカム レセプション	Gala Dinner	

概要

- APEC首脳に対する唯一の公式民間諮問団体
- APEC21カ国・地域のビジネス界の代表者が参加
(FCT代表理事 中曽も委員として参加)
- アジア太平洋地域における貿易・投資の枠組みのあり方をビジネスの立場から議論
- 東京会合会期中に、FCT主催イベント(基調講演・パネルディスカッション)を実施

<p>テーマ</p>	<p>Transitioning APAC Region:How International Financial Centers can drive the Global Transition</p>
<p>日時・場所</p>	<p>2024年8月3日(土) 14:45 - 16:30 東京プリンスホテル (全編英語で実施)</p>
<p>Part1 Keynote Speech</p>	<p>Why international financial center? -How Financial Centers can drive the Global Transition- <登壇者>小池 百合子氏(東京都知事)、有泉 秀氏(金融庁審議官)、中曽 宏氏(FCT代表理事)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">    </div>
<p>Part2 Panel Discussion</p>	<p>How Finance can accelerate Green Transformation at the whole supply chain level <登壇者></p> <ul style="list-style-type: none"> - 政井 貴子氏 (SBI金融経済研究所 理事長) - Michaela Browning氏 (ABAC委員(豪)・Brunswick AP CEO) - Guy Perry氏 (Surecomp CEO) - 林 礼子氏 (BofA証券 副社長) <p>モデレーター: 有友 圭一 (FCT専務理事)</p> 

主な成果

- 1/23に開催した「ABACセミナー」では、ABACが実施する**国際的に相互運用可能なボランタリーカーボンクレジットの試行取引の最新動向**などについて発信
- 同日開催の「FGFイブディナー」では、国内外金融関係者、FCT会員などを招き、ネットワーキングを実施
- 1/24開催の「FGF」では、**ファミリーオフィスに関するセッションなど、今後の政策提言に繋がり得る課題について議論**。メディアによる記事も含め国内外に広く発信
- **参加者アンケートの結果、高い満足度**を達成(神田ADB総裁登壇の基調対談、FCT理事登壇のパネルディスカッションなどが好評)※HPは[こちら](#)を参照
 - ABACセミナー **44**名参加
 - Eve reception **96**名参加(井藤金融庁長官、黒田前日本銀行総裁など)
 - FGF **620**名参加(昨年度比+8.2%)うち現地参加**290**名(昨年度比+39.4%)

課題

- 初の2日制イベントとして実施したため、**一部ロジ面の負荷発生**。
- 今後は国内のほか、**海外からの参加者や視聴者を増加**していく。

○2025年度に向けて

得られた知見を基に政策提言などに反映。

また、海外ロードショー等と連携し海外への周知を図る。



FGFイブプレセッション



FGF基調対談

2025年1月23日(木)

ABAC Sustainable Finance Seminar

【概要】ABAC東京会合のフォローアップ

脱炭素化に向けたVCM※の活用など、8月の議論の深堀り、ABAC関係者との継続した関係構築

○概要

- ・場所 帝国ホテル 東京
- ・時間 午後4時～ 午後6時15分
- ・参加 44名
(ABAC関係者、サステナブルファイナンス関係者、FCT会員企業等)
- ・内容 講演＋パネルディスカッション
(カーボンクレジット市場の取組など、ABACで議論されているサステナブルファイナンスに関連する取組について)

○ネットワーキング・ディナー

- ・参加 96名(上記イベント登壇者、参加者等)

2025年1月24日(金)

TAMF - AM (@KABUTO ONE)

【概要】EM Showcaseの実施

EMPの認知度向上及びEMと機関投資家とのマッチング機会の創出

- 参加 392名 (EM及び国内外機関投資家等 180名会場& 212名オンライン)
- 内容 講演＋EM Showcase＋パネル

FGF - PM (@KABUTO ONE)

【概要】FCT旗艦イベントとなる金融フォーラム

- 参加 620名 FCT会員企業、国内外金融関係者等
- 内容 講演＋パネルディスカッション
- ネットワーキング 100名程度
- 昨年度実績:[HP](#)

Timing	Topic	Speaker/ Moderator
16:00-16:10	Welcome and Introductory Remarks	<ul style="list-style-type: none"> • Mr. Hiroshi Nakaso, FinCity.Tokyo
16:10-17:10	<p>Panel Discussion 1: The Pathfinder Initiative on the Asia-Pacific Network of Interoperable Voluntary Carbon Markets: The Way Forward</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Moderator: Dr. Julius Caesar Parreñas, Coordinator, Asia-Pacific Financial Forum; and Senior Advisor, Daiwa Institute of Research • Mr. Gary Hau, Regional Co-Head, Asia, Legal, Client Coverage, Transaction Banking, CIB • Professor Megumi Hara, Professor of Law, Chuo University • Mr. Anton Tsvetov, Associate Director for Policy, The Integrity Council for the Voluntary Carbon Market (ICVCM) • Ms. Lydia Sheldrake, Director of Policy & Partnerships, Voluntary Carbon Markets Integrity Initiative (VCMI) • Mr. Hari Gadde, Senior Climate Change Specialist, Climate Finance and Economics, Climate Change Group, The World Bank
17:10-18:10	<p>Panel Discussion 2: Interoperable Voluntary Carbon Markets in the Asia-Pacific: Implications for Japan</p>	<ul style="list-style-type: none"> • Moderator: Mr. Shige Ogawa, Senior Analyst-Bloomberg NEF Tokyo Office • Professor Toshi H. Arimura, Professor of Faculty of Political Science and Economics, Waseda University • Ms. Natsuko Gunji, General Manager, Carbon Credit Market Office, Tokyo Stock Exchange • Dr. Shigeto Sudo, Group Leader, NARO Mitigation System Group, Division of Climate Change Mitigation Research, Institute for Agro-Environmental Sciences, National Agriculture and Food Research Organization • Mr. Satoshi Ikeda, Chief Sustainable Finance Officer and Director of the Strategy Development Division, Financial Services Agency, Government of Japan
18:10-18:15	Concluding Remarks	<ul style="list-style-type: none"> • Mr. Hiroshi Nakaso, FinCity.Tokyo

Timing	Topic	Speaker/ Moderator
9:00-9:05	開会挨拶 Opening remarks	<ul style="list-style-type: none"> FinCity.Tokyo 代表理事 中曾宏
9:05-9:15	基調講演 1 Keynote speech 1	<ul style="list-style-type: none"> 金融庁 井藤英樹長官
9:15-9:25	EM Showcaseの紹介 Introduction of EM Showcase	<ul style="list-style-type: none"> FinCity.Tokyo シニアアドバイザー石田英和
9:25-10:25	EM Showcase(自社紹介プレゼン)	<ul style="list-style-type: none"> アニマルスピリッツ 代表パートナー 朝倉祐介氏 ブリックレイヤー・アセット・マネジメント株式会社 社長兼ポートフォリオマネージャー 楠本昭人氏 ジャパン・アクティベーション・キャピタル株式会社 代表取締役社長&CEO 大塚博行氏 Kemuri Ventures 合同会社 代表パートナー 岡田博紀氏 日本橋バリューパートナーズ株式会社 創業者兼最高投資責任者 高柳健太郎氏
10:25-10:35	休憩(EM Showcase Photo session)	
10:35-11:20	Panel discussioin:インパクト投資	<ul style="list-style-type: none"> SDGインパクトジャパン マネージング・パートナー 岡由布子氏 カディラキャピタルマネジメント 代表取締役社長 トレーディング部長 坂本一太氏 GLIN Impact Capital 共同代表 秦 雅弘氏 モデレーター: FCT マネージャー 村井翔太郎
11:20-11:35	基調講演 2 Keynote speech 2	<ul style="list-style-type: none"> TriVista Capital パートナー 後藤正樹氏
11:35-12:20	Panel discussioin:グローバル機関投資家のEMアロケーション戦略	<ul style="list-style-type: none"> Philippe Paquet, Managing Partner, New Alpha Asset Management Kirk Sims, Managing Director of Emerging Managers Program, TRS Investment Management Division Daniel Jim, Senior Adviser, Chartwell Family Partners Ferenc Sanderson, Executive Advisor, Visual Alpha Co. Ltd
12:20-13:50	Lunch networking	

イベントの趣旨・考え方

- 2023年度は「資産運用立国」構想に含まれるアセットオーナー・プリンシプルやEMPなどの始動を国際金融都市の「変曲点」として取り上げた。
- 2024年度は、国際金融センター構想から持続可能な経済成長のモメンタムを更に前進させるための「未開拓の要路」を押さえる、国際金融都市の「喜望峰」(新たな成長可能性のある領域)を開拓する。
- FGFの前日に開催する「ABAC Sustainable Finance Seminar」、同日開催の「Tokyo Asset Management Forum」と連携し、資産運用分野におけるステークホルダーと深い議論を交わす場を提供する。

FGF2025 3つのテーマ

1. 「投資対象としての日本を実現するためのGX戦略」
2. 「小粒上場問題の解決とグロース市場の活性化のために必要なこと」
3. 「プライベートウェルスの開放から持続可能な経済成長への回路を拓く」

時刻	項目	登壇者
14:00-14:03	開会挨拶(3分)	・ 小池 百合子 東京都知事
14:05-14:50	基調対談 2025年国際金融・経済政策の見通しと金融センターとしての東京の役割(45分)	・ 中曾 宏 FinCity.Tokyo代表理事× 神田 真人 アジア開発銀行総裁
14:50-15:40	パネルディスカッション①:「投資対象としての日本を実現するためのGX戦略」(50分)	・ 服部 経治氏 (FCT理事)・有田 浩之氏(BlackRock Japan)・高田 英樹氏(GX推進機構・理事)・原田 文代氏(FCT理事)
15:55-16:10	基調講演	・ 菅野 暁氏(東京大学CFO)
16:10-17:00	パネルディスカッション② 「小粒上場問題とグロース市場の活性化のために必要なこと」(50分)	・ 有友 圭一氏(FCT専務理事)・菱田 賀夫氏(三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社)・黄 春梅氏(インパクトキャピタル株式会社)・出川 昌人氏(日本CFA協会)・朝倉 祐介氏(アニマルスピリッツ株式会社)
17:05-17:40	ピッチセッション:東京市場への新たな挑戦 新規参入した運用会社とVCによる戦略と展望	・ 5社 (ARCHIMED、キャップストーン・ジャパン・リミテッド、ユーラゼオ、Fiera Capital Asia、Pangea Ventures)
17:40-18:30	パネルディスカッション③:プライベートウェルスの開放から持続可能な経済成長への回路を拓く(50分)	・ 鬼頭朱実氏(PwC税理士法人)・浜田 直之氏(三菱UFJモルガンスタンレー証券株式会社)・阪口和子氏(FCT理事)
18:30-18:35	閉会挨拶(5分)	・ Laurent Depus, Secretary General of IBA(FCT会員)
18:35-19:35	Networking (60分)	

金融系外国企業発掘誘致事業(Attraction U)



Eurazeo社セレモニー



FGFに登壇した
誘致企業

主な成果

- 拠点設立に向けた伴走支援
⇒ **7社**(※計画5社)
- 拠点設立・事業開始企業
⇒ **3社**(※計画5社程度) 企業価値評価額合計 **\$0.9B**(※計画\$1B)
資産運用残高合計 **\$44.6B**(※計画\$15B)

課題

- 日本の金融市場において**プレーヤーの参入が十分でない分野、技術が未成熟な分野に属する企業をさらに発掘していくことが必要**
- 同事業の認知度は高まりつつあるものの、**FCT会員や国内外で関係を構築したステークホルダーとより一層連携し、誘致対象企業を掘り起こしていくことが必要**

○2025年度に向けて

- ・国内外関係者・貴社関連部門への周知を図り、本事業の認知度向上を図る
- ・エコシステムの活性化に資する東京進出に関心のある企業を広く誘致対象としていく



TIBでのネットワーキングイベント

主な成果

ネットワーキングイベントにおいて、**今年度新たにビジネスマッチング面談の機会を設定**し、協業パートナー探索の促進を図った。

- ビジネスマッチング
約40社との面談実施(※計画25社程度)
- 協業事例(NDAやPoC、事業化を含む)
6件(※2023年度:1件)

課題

- 協業事例の増加に向けて、**ビジネスマッチング機会の拡大**、FCT会員企業と連携した**協業先の探索**が必要
- イベント終了後も登壇企業への継続的な進捗確認、助言等が必要

○2025年度に向けて

- ・イベント前後の継続的なビジネスマッチング設定など、多角的なサポートを展開
- ・協業事例に繋がるような質の高いビジネスマッチングを実施していく

イベント登壇者

No.	会社名	事業概要	想定協業先
1	Everimpact	衛星データと地上センサーからのデータを解析しGHGの排出量や吸収量の実測を行う気候変動テック企業です。現在、都市(自治体)向け、船舶向けのGHGの実測と、大規模森林におけるカーボンクレジット(ボランティアクレジット)の創出サポートサービスを提供しています。	地方自治体、建設、不動産業界、森林のカーボンクレジット創出・売買にご興味をお持ちの金融機関、商社、エネルギー企業、船舶会社
2	Episode Six	21世紀のビジネスチャンスが数十年前のテクノロジーに制約されない世界を想像してみてください。E6は、銀行やブランドがレガシー決済テクノロジーにとられることなく、業界をリードする最も柔軟で拡張性の高い決済プラットフォームで、顧客から支持される決済サービスを構築するお手伝いをいたします。	金融機関、カード会社、決済サービスを提供している企業、決済ソリューションを提供している企業
3	Chainalysis	暗号資産やWeb3事業者、金融機関、政府機関などに対し、リスクある暗号資産取引を検知・追跡するためのブロックチェーン分析ソリューションとそのデータを提供することで、信頼向上に貢献しています。	Web3事業に取り組む金融機関やエンタープライズのお客様
4	Fresh Supply Co	金融機関・投資家と融資を求める農業事業者等との仲介プラットフォームを提供します。データをトークン化することで、銀行・金融・政府・規制(ESG)、貿易など、多岐にわたるセクターで信頼性の高いデータ管理・取引が可能になります。	デジタルトランスフォーメーションを進める保険、貿易、コンプライアンス、ESG/規制、銀行、地域銀行などの業界と協力を目指しています。
5	Mind Foundry Ltd	オックスフォード大学の企業であるMind Foundryは、人類規模の諸問題に対処するための「責任あるAI」開発に取り組んでいる。同社は、機械学習の先駆者であるStephen Roberts教授とMichael Osborne教授を共同創業者とし、人間とAIが協力して重要な問題解決を図る未来の創造を使命にしている。	高速道路運営会社/リース業界/鉄道会社/重機メーカー

Emerging Managers Program 1/13

主な成果

- 海外アセットオーナー(AO)との接点構築・強化
 - 海外ロードショー(SG, 米国)を通じて、**海外AOと接点を構築**
 - ❖ 海外AO Surveyへの参加: 年間**18社**
 - ❖ EMとの個別マッチングイベントへの参加: 年間**5社**
 - 既に接点がある**海外AO**に対しては、日本のEM情報を定期的に発信し続けることで、**リレーションを維持**
 - ❖ Texas TeachersのKirk Sims 氏(Managing Director of EMP)の**TAMFにおける登壇(初来日)を実現**し、日本のEMとの対面での接点機会を創出
- Tokyo Asset Management Forum 2025を開催し**EMの認知度向上**
 - ❖ 申し込み数:約660名 参加者数:約**400名**(会場:180名、視聴者数:212名)
 - ❖ EM Showcaseによるプレゼンテーションを実施し、**5社**のEMが登壇
- 「EM Showcase2025」として23社(後頁に掲載)を選定した。



TAMF2025



EM Showcase2025

課題

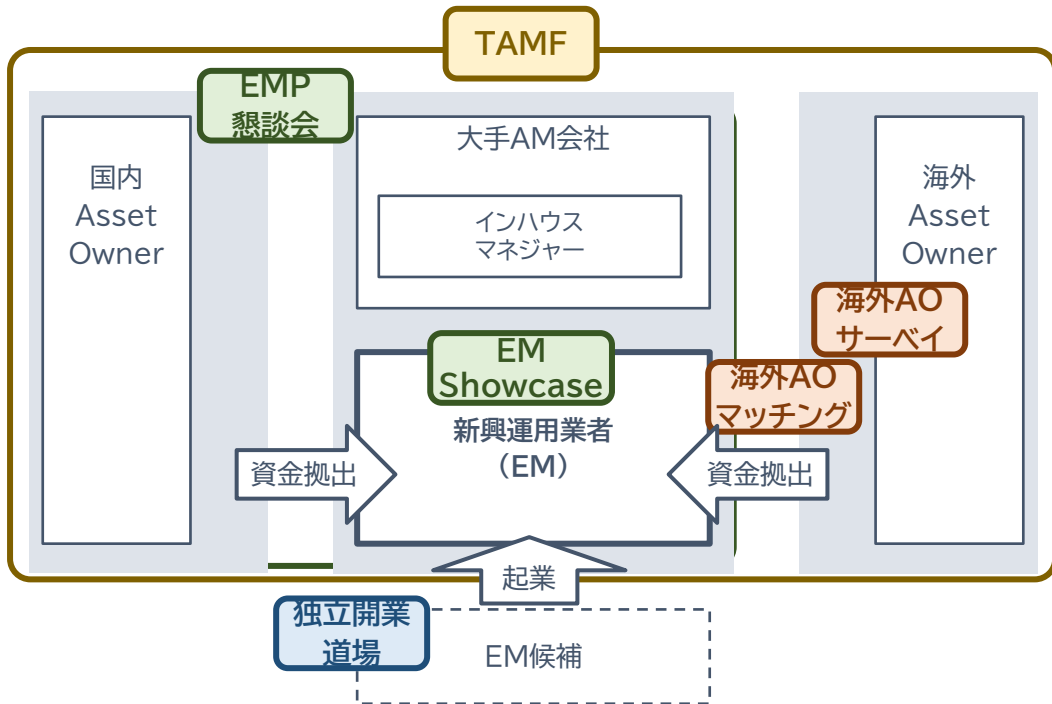
- **国内AOへのEMPの普及**
 - EM Showcase (今年度**23社**)を活用しEMへ運用委託を行うAOの実績を作る

○2025年度に向けて

- 海外ロードショーをレバレッジして**海外AO(特にFamily Office)との接点を拡大**
- 「EM Showcase」のメディア等における**露出機会の拡大**

EMP事業の目的：新興資産運用業者(EM)の市場参入を促進し、国内資産運用業の多様化・高度化を促進

EMP各プロジェクトの位置づけ



- 1** 主要プレーヤーが一堂に会するフラッグシップイベント

Tokyo Asset Management Forum (TAMF) EMPの認知度向上及びEMを始めとする国内資産運用者と機関投資家とのマッチング機会の創出
- 2** 国内EMと海外AOとの架け橋

海外AO マッチング EMと海外AOのマッチング機会創出

海外AO サーバイ 海外AOに対するEM投資の実態調査
- 3** 国内EMへの資金拠出を促進するための施策の検討・実施

EMP 懇談会 「AOからEMへの資金拠出」を後押しするための施策の具現化。

EM Showcase 注目に値する国内EMを見える化して紹介することで、EMの認知度向上を促進
- 4** 次なる国内EMの創出と育成

独立開業道場 先輩EMや専門家による実務的な情報提供を通じた、次世代EMの独立・開業促進

Timing	Topic	Speaker/ Moderator
9:00-9:05	開会挨拶 Opening remarks	<ul style="list-style-type: none"> FinCity.Tokyo 代表理事 中曾宏
9:05-9:15	基調講演 1 Keynote speech 1	<ul style="list-style-type: none"> 金融庁 井藤英樹長官
9:15-9:25	EM Showcaseの紹介 Introduction of EM Showcase	<ul style="list-style-type: none"> FinCity.Tokyo シニアアドバイザー 石田英和
9:25-10:25	EM Showcase(自社紹介プレゼン)	<ul style="list-style-type: none"> アニマルスピリッツ 代表パートナー 朝倉祐介氏 ブリックレイヤー・アセット・マネジメント株式会社 社長兼ポートフォリオマネージャー 楠本昭人氏 ジャパン・アクティベーション・キャピタル株式会社 代表取締役社長&CEO 大塚博行氏 Kemuri Ventures 合同会社 代表パートナー 岡田博紀氏 日本橋バリューパートナーズ株式会社 創業者兼最高投資責任者 高柳健太郎氏
10:25-10:35	休憩(EM Showcase Photo session)	
10:35-11:20	Panel discussion:インパクト投資	<ul style="list-style-type: none"> SDGインパクトジャパン マネージング・パートナー 岡由布子氏 カディラキャピタルマネジメント 代表取締役社長 トレーディング部長 坂本一太氏 GLIN Impact Capital 共同代表 秦 雅弘氏 モデレーター: FCT マネージャー 村井翔太郎
11:20-11:35	基調講演 2 Keynote speech 2	<ul style="list-style-type: none"> TriVista Capital パートナー 後藤正樹氏
11:35-12:20	Panel discussion:グローバル機関投資家のEMアロケーション戦略	<ul style="list-style-type: none"> Philippe Paquet, Managing Partner, New Alpha Asset Management Kirk Sims, Managing Director of Emerging Managers Program, TRS Investment Management Division Daniel Jim, Senior Adviser, Chartwell Family Partners Ferenc Sanderson, Executive Advisor, Visual Alpha Co. Ltd
12:20-13:50	Lunch networking	

#	会社名・代表者	起業の経緯・運用戦略	FinCity.Tokyoが注目したポイント
1	日本橋バリュートナース CEO 高柳 健太郎氏	<ul style="list-style-type: none"> 野村アセットマネジメントにおいて20年以上日本株バリュートナースの運用を担当 顧客層が世界28か国に広がるAUM9000億円超えの旗艦ファンドを育てた。 高柳氏が、前職で、海外機関投資家と接点を持ってきた経験を踏まえ、海外と比較し日本には独立系運用会社が少ないことを実感し、独立系として自ら起業 国内企業へのバリュート投資 	<ul style="list-style-type: none"> 左記の起業理由に独自性がある(これまでの経験やキャリアを脱ぎ捨て、EMとして一から立ち上げ) アクティブ運用を通じて、日本の上場企業の成長の機会を発見している点
2	Japan Activation Capital CEO 大塚 博行氏	<ul style="list-style-type: none"> カーライルジャパンPEファンドの副代表として大企業からのカーブアウト案件等を主導 日本の産業界再生には、成熟した大企業の変革の後押しをする存在が必要との考えから起業 国内上場企業へのエンゲージメント投資 	<ul style="list-style-type: none"> Private Equity投資で培ったノウハウを活用し、上場維持したまま投資先企業の経営の加速、バリュートアップを支援する点に注目 こうした戦略・ノウハウが評価され、会社設立後半年で約1,500億円の資金を集めた。
3	なかのアセットマネジメント 代表取締役社長 中野 晴啓氏	<ul style="list-style-type: none"> 2006年セゾン投信株式会社を設立。2007年以降代表取締役社長を務め、販売会社を介さず個人投資家へ直接投資信託を提供 2023年独立して会社設立 「国内の成長企業」「世界の成長企業」それぞれに対して投資を行う公募投資信託(2本)を運用 	<ul style="list-style-type: none"> 投資信託委託業として日本株アクティブ運用を行う独立系運用会社。日本では取扱いが少ない業種体として着目 NISA/iDecoを契機に資産運用への関心が高まる個人を投資家としてターゲティングしている点がユニーク

#	会社名・代表者	起業の経緯・運用戦略	FinCity.Tokyoが注目したポイント
4	カタリスト投資顧問 取締役会長 松本 大氏	<ul style="list-style-type: none"> マネックスグループの一員として設立 これまでは、オンライン証券会社の先駆者として、日本の「個人投資家」と「マーケット」の距離を近づけることに貢献 次のテーマとして「個人投資家」と「企業」を近づけることを目的に起業 国内上場企業へのエンゲージメントファンドの運用に助言 	<ul style="list-style-type: none"> 松本氏の職業人生の集大成として起業した点に着目 「国内個人投資家向けの日本株エンゲージメントファンド」に助言。海外投資家の独壇場である分野に風穴を開けた。 最終株主にあたる個人投資家を巻き込んで投資先企業のエンゲージメントを行っている点が新しい。
5	インパクト・キャピタル(株) 代表取締役 黄 春梅氏 代表取締役 高塚 清佳氏	<ul style="list-style-type: none"> 両名ともに、新生銀行(現SBI新生銀行)にて約20年投資業務に従事 2017年に邦銀系初のインパクト投資ファンド「子育て支援ファンド」、2019年に機関投資家参加型の2号ファンド「はたらくFUND」を設立 インパクト投資推進団体や政府主催の委員会の委員なども務め、インパクト投資エコシステムの構築にも貢献 2024年1月新生銀行を退職後、5月にインパクト・キャピタル1号ファンドを設立 日経WOMAN「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2019」受賞 	<ul style="list-style-type: none"> インパクト投資における第一人者である2名の女性パートナーが率いる、独立したVCファンドとして着目 日本のインパクト投資をリードし続ける2名に共感し、かんぼ生命、立命館がアンカーインバスターに入った。
6	SDGインパクトジャパン Co-CEO 小木曾 麻里氏 Co-CEO 前川 昭平氏	<ul style="list-style-type: none"> 次世代の持続可能な社会の実現に向けた、イノベーションの促進と新たな資本の流れの創出をミッションに掲げ、サステナビリティと経済成長の両立を目指して活動を展開 有力なパートナーとともに国内上場企業へのインパクトエンゲージメントファンドなどを含むサステナビリティにフォーカスした運用戦略の組成・運営推進、サステナビリティ向上に貢献する革新的な事業のインキュベーションを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティの観点で企業価値向上に資する課題を特定し、エンゲージメントを通じて改善を促す点が先駆的である。 環境関連およびジェンダーに着目した上場株のインパクト投資が新しい。

#	会社名・代表者	起業の経緯・運用戦略	FinCity.Tokyoが注目したポイント
7	ブリックレイヤー・アセット・マネジメント CEO 楠本 昭人氏	<ul style="list-style-type: none"> 大手ヘッジファンド(K2)出身者が金融機関や企業年金運用者とともに設立 排出権運用戦略を開発・運用 	国内では取り扱いの少ない「海外の炭素排出権に対する投資」を国内投資家向けに提供している点に着目
8	ジャパン・エクステンシブ・インフラストラクチャー CEO 岡村 研二朗氏	<ul style="list-style-type: none"> 三井住友信託銀行株式会社およびマーキュリアホールディングスが共同出資により設立 投資チームは銀行の投融資経験者と外部専門家で構成され、外部LP投資家から資金募集している。 「脱炭素」「デジタル」などのインフラ、地域経済の活性化・持続的発展に資する社会インフラのプロジェクトおよび企業を投資対象としたファンドへ助言 	<ul style="list-style-type: none"> 機関投資家が出資する国内インフラファンド向けの投資助言サービスを実施 将来的には機関投資家だけでなく国内外の広汎な投資家を国内インフラ投資に参加させることを目指す。 大手金融グループをあげた新規投資運用領域開拓案件の一つ
9	ミネルバ・グロース・パートナーズ(MGP) 代表取締役 長澤 啓氏 代表取締役 村島 健介氏	<ul style="list-style-type: none"> メルカリでCFOを務めた長澤氏とモルガン・スタンレーでGlobal Internet Banking/Global Software Banking Group日本統括責任者を務めた村島氏が、香港拠点で日本上場株投資を行う「Pleiad Investment Advisors」と共同で設立 MGPがプレIPOの出資をメインとしてIPO後も株式を継続保有。その後、上場株式を運用するPleiadのファンドに株式を移し、IPO後の長期保有を行う。 	国内スタートアップの「小粒上場」問題に対するソリューションの一つとして、クロスオーバー投資という手法を提供している点に注目

#	会社名・代表者	起業の経緯・運用戦略	FinCity.Tokyoが注目したポイント
10	リグロース・キャピタル・マネジメント 代表取締役 漆谷 淳氏	<ul style="list-style-type: none"> • レイター期のスタートアップに対してダイレクト・セカンダリー投資 	<ul style="list-style-type: none"> • 国内スタートアップの「小粒上場」問題に対するソリューションの一つとして、ダイレクトセカンダリーという手法を提供している。 • 日本発のユニコーン創出に貢献する取組として、JICが評価してLP投資
11	GLIN Impact Capital 共同代表 中村 将人氏 共同代表 秦 雅弘氏 共同代表 才木 貞治氏	<ul style="list-style-type: none"> • 日本および一部海外のミドル・レイター期社会課題解決型スタートアップへのインパクト投資を行い、投資先がグローバルに社会課題を解決できるメガインパクト企業となるべく深いハンズオン支援を提供 	<p>日本においてインパクト投資の発展・拡大に貢献するために、自ら会社を設立して、以下取り組んでいる点に事務局は注目</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本が直面する社会課題を解決するスタートアップへ投資することで、日本に合ったインパクト投資の実践知が蓄積・国内外に共有され、日本からグローバルで社会課題を解決するインパクト企業が多数輩出されるようエコシステム形成に取り組んでいる。
12	Global Hands-On VC Managing Partner 安永 謙氏 Managing Partner シュリドダニ氏	<ul style="list-style-type: none"> • 日本の技術系スタートアップに投資し、海外展開も含め、その成長をハンズオンで支援し、投資リターンの最大化を図る事を目的に、日本人2名・アメリカ人3名で設立 • 起業経験、スタートアップ経営経験を持つパートナー陣が、海外も含めたチーム作り・PMF・顧客ネットワーク構築・資金調達・Exitを支援 	<ul style="list-style-type: none"> • 日本のスタートアップの価値増大をグローバル展開×ハンズオンで支援している点 • 上記に伴い、スタートアップの海外進出をサポートする事業会社(双日)や、Sompo Light Vortex、イー・アイ・キャピタル等がLP投資

#	会社名・代表者	起業の経緯・運用戦略	FinCity.Tokyoが注目したポイント
13	アス・キャピタル・パートナーズ Founding Partner 夏目 英男氏 Founding Partner 李 路成氏	<ul style="list-style-type: none"> East Ventures及びZ Venture Capitalの出身者が2024年に設立した独立系ベンチャーキャピタル ”Japan to Global”を目指すプレシード・シード期のスタートアップへ出資 	「早稲田卒の中国人と清華大卒の日本人が設立した」というダイバーシティのあるバックグラウンドを活かして、日本からグローバル市場を目指すスタートアップを伴走支援している点に注目
14	15th Rock Founder & General Partner 中島 徹氏 源 健司氏	<ul style="list-style-type: none"> 中島氏:東芝で研究職を経て、産業革新機構でディープテックの投資に従事、複数のEXITを達成。その後MistletoeでCIOとして投資活動を統括。日米欧の投資家や起業家との強力なネットワークを持つ。 源氏:トヨタ自動車を経て、さわかみ投信で証券アナリストとファンドマネージャーを経験。その後ニッセイ・キャピタルでは、累計19社中7社をIPO/M&Aで成功に導く。 主にシード期とプレIPOの国内外スタートアップに投資 	<ul style="list-style-type: none"> Human Augmentationセクターに特化したVC 各エリアの地方銀行とも連携し、地域と投資先のマッチングなども実施 3号ファンドは、北海道大学と共同で設立し、大学の研究シーズのほか、地域連携を視野に入れ第一次産業、GX、サステナビリティ関連のスタートアップへの投資も予定
15	Spiral Capital CEO 奥野 友和氏	<ul style="list-style-type: none"> 2015年よりCCCグループのデジタル部門執行役員CFO。同年 CCCグループ傘下でIMJ Investment Partners Japan(現:Spiral Capital)を設立。その後、MBOを経てCCCグループから独立 旗艦ファンド(機関投資家向けファンド)は、BIG4領域(AI/フィンテック/ヘルスケア/スマートインフラ)のアーリーステージ企業に重点投資 旗艦ファンドとは独立した別のGPエンティティでCVCファンドを運営 	<ul style="list-style-type: none"> CVCファンド事業で培った大企業ネットワークを活かしたオープンイノベーション支援 外資系投資銀行出身者を中心とするメンバー構成で、金融プロフェッショナルとしての”社外CFOロール” 旗艦ファンドについては、新規事業・新産業の創造の推進の観点により、JICが評価してLP投資

#	会社名・代表者	起業の経緯・運用戦略	FinCity.Tokyoが注目したポイント
16	kemuri ventures 代表パートナー 岡田 博紀氏	<ul style="list-style-type: none"> ● JAFCOにて、投資のスタンダードを学ぶ。 ● その後、三菱商事・ぐるなび・丸井グループのCVC部門で、主に食関連スタートアップに投資 ● 初代店長として、和食店を20年間経営 ● 2020年3月に地球一周し、「食と健康の重要性」「日本の食の可能性」を世界各地で再認識し、日本帰国後の5月にVC設立 ● 「食の未来ファンド1号」では、「独自のテクノロジーを有する」食領域の国内スタートアップ21社に投資 	食領域で日本は「リーダーシップ」を示すべきだと考え、起業に至った経緯に、事務局は注目
17	Dual Bridge Capital 共同代表 伊東駿氏 共同代表 寺田修輔氏	<ul style="list-style-type: none"> ● シード/アーリー期とプレIPOのスタートアップへ投資 ● 自己資本を基にマジョリティ投資を行うPE「ミダスキャピタル」が新設したVC 	VCの世界で経験を積んだ伊東氏と、上場企業のCFOで経験を積み現在PE(ミダスキャピタル)で取締役を務める寺田氏による、スキルセットの組み合わせ
18	mint ジェネラル・パートナー 木暮 圭佑氏 ジェネラル・パートナー 白川 智樹氏 ジェネラル・パートナー 武田 紘典氏	<ul style="list-style-type: none"> ● 独立系VCのアプリコット・ベンチャーズおよびTLMの代表者が合体して設立 ● プレシード・シード期のスタートアップへのリード投資を中心とした投資戦略 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大手IT、独立系VC、大手監査法人/大手CVC出身のGP3名による多様なチーム構成 ● 創業期からの日本発ユニコーン創出に貢献する取組みとして、JICなどの政府系ファンドやメガ/地銀系ファンドが評価しLP投資

#	会社名・代表者	起業の経緯・運用戦略	FinCity.Tokyoが注目したポイント
19	One Capital CEO 浅田 慎二氏	<ul style="list-style-type: none"> • アーリー期のスタートアップへ投資 • 投資対象はSaaS、ヘルステック等 	<p>「日本の大企業のバックオフィスを効率化させることで日本の生産性が上がる」という視点に基づき、以下取り組んでいる点に注目</p> <ul style="list-style-type: none"> • LP投資家(大企業)に対してDXに関するアドバイスをを行う。 • 投資先SaaS企業をハンズオン支援し、彼らのプロダクトをLP投資家(大企業)に活用いただく。
20	デライト・ベンチャーズ マネージングパートナー 南場 智子氏	<ul style="list-style-type: none"> • DeNA創業者・代表取締役会長の南場智子氏が、起業・事業経験を持つメンバーらと2019年に創業 • 1号ファンドはDeNAからの単独出資を受け、シード・アーリーステージのスタートアップに投資 • 2023年に立ち上げた2号ファンドは、DeNAのほか、機関投資家や金融機関、事業会社も出資 	<ul style="list-style-type: none"> • 上場企業経営の経験者による、「事業家目線のVC」 • 投資契約方針で、出資するスタートアップに「上場努力義務を課さない」と明確化した点が新しい。
21	アニマルスピリッツ 代表者 朝倉 祐介氏	<ul style="list-style-type: none"> • シード・アーリーステージのスタートアップへ投資 • 超高齢社会や気候変動などの社会課題に挑戦する事業を有したスタートアップへ投資 • みずほ銀行、中小基盤整備機構などがLP投資 	<p>上場企業経営の経験者による、「事業家目線のVC」</p>

#	会社名・代表者	起業の経緯・運用戦略	FinCity.Tokyoが注目したポイント
22	NOW 共同代表 家入 一真氏 共同代表 梶谷 亮介氏	<ul style="list-style-type: none">シリアルアントレプレナーを中心に主にシード期のスタートアップへ投資SBI新生銀行、大和証券グループ、SMBC日興証券、グリーなどがLP投資	著名な起業家で多数のエンジェル投資実績を有する家入氏の「起業家目線」とネットワーク、VCや証券会社で多数の投資やIPO支援実績を有する梶谷氏の「投資家目線」というスキルセットやアセットの組み合わせ
23	D4V(Design for Ventures) CEO 高野 真氏	<ul style="list-style-type: none">シード・アーリー期のスタートアップへ投資デザインの視点からサポートプロジェクトを立ち上げ、ハンズオンでの伴走型支援を実施	<ul style="list-style-type: none">投資先スタートアップ企業に対し、ブランディングから製品開発、組織づくりに至るまでの多様なデザイン課題を支援投資先が国内外で活躍できるよう、グローバル・デザイン・コンサルティング会社「IDEO」とパートナーシップを組んだサポートを実施

選定委員長
FinCity.Tokyo
代表理事 中曾 宏

三井住友トラスト・アセットマネジメント
代表取締役社長 菱田 賀夫 氏

かんぼ生命
専務執行役 春名 貴之 氏

シブサワ・アンド・カンパニー
代表取締役 渋澤 健 氏

科学技術振興機構
運用業務担当理事 喜田 昌和 氏

アセットマネジメントOne
代表取締役社長 杉原 規之 氏

日本政策投資銀行
常務執行役員 原田 文代 氏

レオス・キャピタルワークス
取締役会長兼社長 藤野 英人 氏

Forbes JAPAN
Founder 高野 真 氏

FinCity.Tokyo
EMP選定委員会

FinCity.Tokyo
専務理事 有友 圭一

Showcase対象企業の選定に際しては、各選定委員の所属企業又はその関連企業が選定の候補となった場合には、当該選定委員は当該企業に係る選定のプロセスには参加しないこととする措置を取る。

2024年度 Tokyo 独立開業道場 プログラム

(敬称略)

オンライン

第1回

2024年
9月4日(水)
18:00-19:50

18:00-18:10	ご挨拶 FinCity.Tokyo 石田 英和
18:10-18:40	「開業からライセンス取得まで」 カディラキャピタルマネジメント株式会社 (投資運用業) 坂本 一太
18:40-19:10	「資産運用業関連のライセンス取得手続きについて」 サポート行政書士法人 増野 佐智子
休憩	
19:20-19:50	「資産運用業を取り巻く税制に関する論点」 PwC税理士法人 鬼頭 朱実
質疑応答(5分間)	

第2回

2024年
10月10日(木)
18:00-20:00

18:00-18:05	ご挨拶 FinCity.Tokyo 石田 英和
18:05-18:35	「開業から事業開始まで①」 マロンキャピタルパートナーズ株式会社 小野 俊法
18:35-18:50	「資産運用業の登録について」 財務省 関東財務局 東京財務事務所 理財第7課長 林 泰宏
休憩	
19:00-19:30	「投資組合等の法務」 西村あさひ法律事務所 下田 顕寛
19:30-20:00	「開業から事業開始まで②」 De Capital株式会社 吉田 知洋
質疑応答(5分間)	

第3回

2024年
11月26日(火)
18:00-20:00

18:00-18:05	ご挨拶 FinCity.Tokyo 石田 英和
18:05-18:35	「ビジネスプラン策定上のポイント」 アルファクエスト株式会社 末永 孝彦
18:35-18:50	「63条届出に関する留意点」 財務省 関東財務局 東京財務事務所 理財第8課長 星野 淳一
休憩	
19:00-19:40	「ケイマン籍ファンドの法務」 ホワイト&ケース法律事務所 邑口 貴央
19:40-20:00	「日本版FMCを用いた効率的な投資ビジネス立ち上げについて」 株式会社 日本資産運用基盤グループ 大原 啓一
質疑応答(5分間)	

オフライン
FinGATE KAYABA 1F

第4回

2025年
2月14日(金)
18:00-21:00

18:00-18:05	ご挨拶 FinCity.Tokyo 村井 翔太郎
18:05-18:25	「金商法(資産運用業に係る部分)の変更」 金融庁 企画市場局 市場課 市場法制企画調整官 染川 貴志
18:25-18:55	「資産運用業のミドルバック外部委託について」 パナリティカッション ■ 金融庁 ■ 企画市場局 市場課 市場法制企画調整官 染川 貴志 ■ 株式会社 日本資産運用基盤グループ 大原 啓一
19:05-19:35	「EMPを通じた新たな資産運用エコシステム」 三井住友トラスト・アセット マネジメント株式会社 経営企画部長 岡田 賢悟
19:35-20:00	「雇用型運用プラットフォームの活用について」 Point72 Japan Limited Toby Bartlett
質疑応答(5分間)	
20:10-21:00	ネットワーキング 参加者全員

講師や専門家による個別相談会も受け付けております。事務局までご連絡ください。

回	申込人数	参加人数
第1回	80	49
第2回	87	35
第3回	70	36
第4回	113	50
総計	350	170

以下の政策当局者等と個別に面談し、日本の産業に成長資金を呼び込むための課題等について意見交換を行った。特に、日本の投資事業有限責任組合(LPS)における諸課題についてについて議論し、当法人からは、海外ロードショー等を通じて得た市場参加者等からの声を共有しつつ、諸課題の解決に向けた政策提言を行った。

- 自由民主党 神田潤一 衆議院議員との意見交換(2025年3月)
- 自由民主党 中西 健治 衆議院議員との意見交換(2025年3月)
- 自由民主党 片山 さつき 参議院議員との意見交換(2025年3月)
- 自由民主党 今枝宗一郎 衆議院議員との意見交換(2025年3月)
- 自由民主党 小林史明 衆議院議員との意見交換(2025年3月)

自民党金融調査会提出資料

日本の中小企業に成長資金を呼び込むために
-Limited Partnership Scheme (LPS)における課題調査-

2025年4月9日

一般社団法人 東京国際金融機構 (FinCity.Tokyo)

Feedback from Canadians

“We are shifting allocations from China to Japan and **India**. Indians are much more aggressive. As a result, we tend to pay more attention to India”

“We are trying to increase allocation to Japan and considering to **open an office in Japan**”

“We are already **co-investing with GPIF**. We need to enhance our partnership with Japanese asset owners”

“Japanese FIEA is too complex. The room for legal interpretation is too much. We end up paying too much legal fees in conducting business in Japan”

“We are concerned about Japanese **corporate governance and gender diversity.**”

“Japanese **climate transition** related technologies are interesting, but they may be too early to be materialized/ monetized”

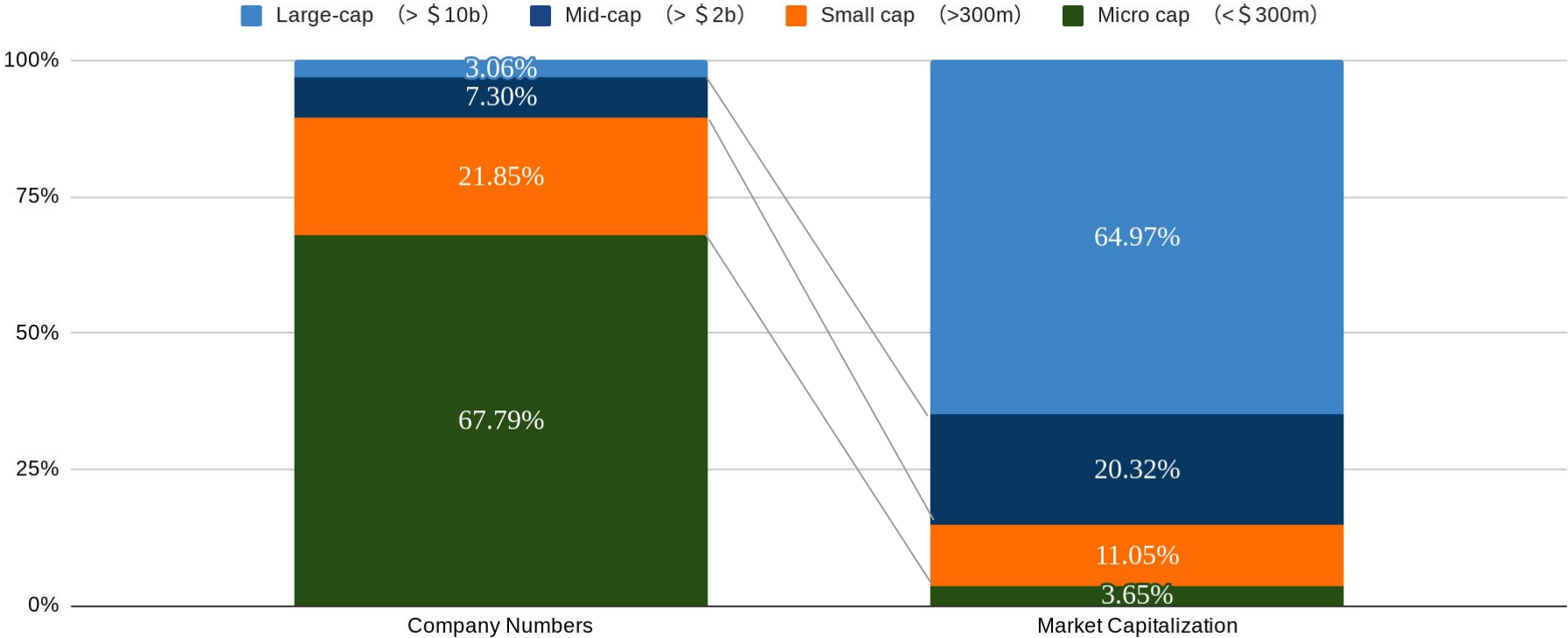
“It is hard to allocate to Japan. Our **minim size of the ticket is 50 million USD** for private asset classes and we want to stay as a minority investor. It cannot find companies sizable enough for us”

“US is politically too unpredictable and China is economically shaky. In this sense, Japan is our most stable partner both from supply chain and investment chain perspectives”

“Japanese **limited partnership related law and tax codes** are too complex and peculiar. We don't know how to stay away from the PE tax. Also Japanese LPS related information is limited in English”



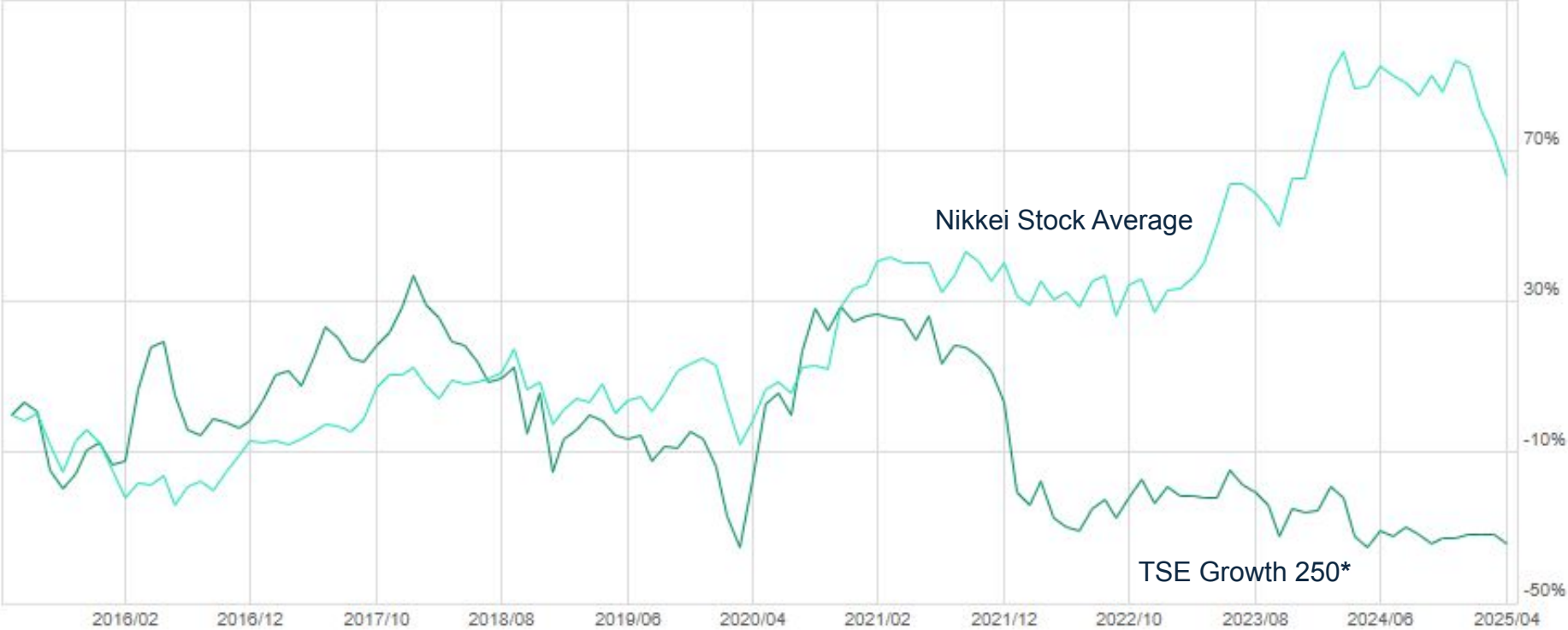
Number and Market Capitalization Distributions of TSE Listed Companies



上記チャートは、東京証券取引所の情報を基にFCT作成（2025年4月4日時点）

TSE Growth 250 Index over the last 10 years

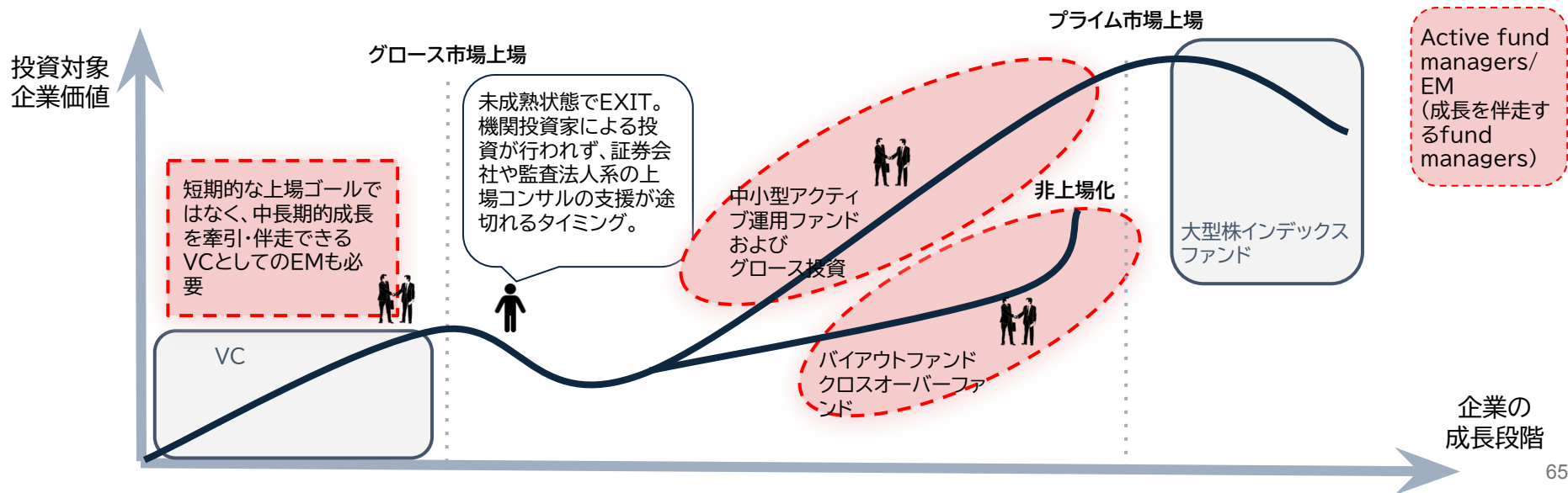
As of 11 April 2025



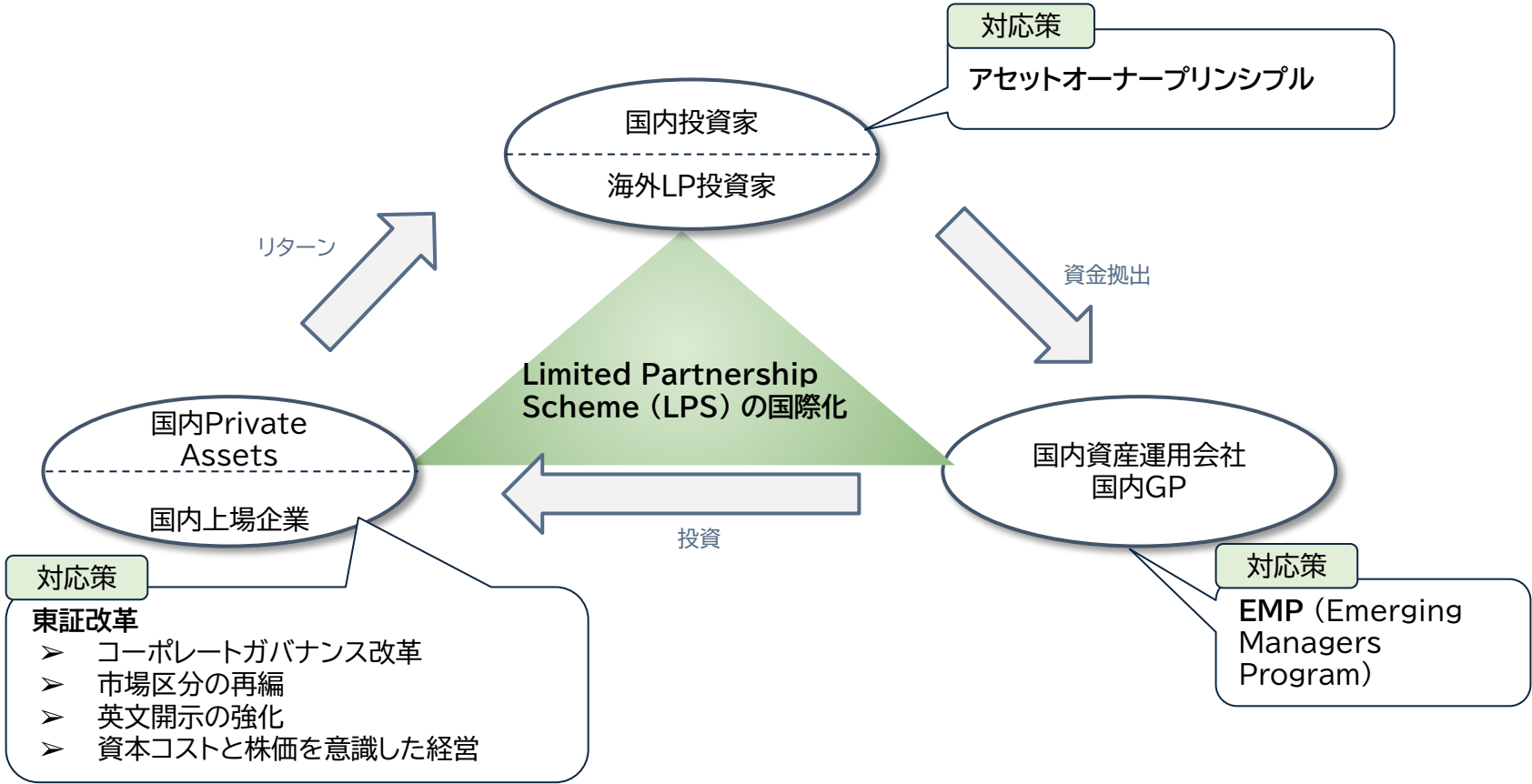
*As successful companies tend to move up to the Prime Market (i.e., removed from the TSE Growth 250 index), this index may have a 'Reverse Survivorship Bias'

Growth Equityやバイアウトファンドの活用の重要性

- 上場まではVenture Capitalists (VC) が伴走するものの、小さな時価総額にて上場するケースが多い。
- 上場後の持続的な成長を支えるべく、以下の機能を持つ以下のファンドの必要性は高い。
 - 多くの機関投資家にカバーされていない企業に対する成長資金の供給と伴走する機能
 - 成熟した企業が再び成長軌道にのるために非上場化等を通じて事業再編などを後押しする機能



日本の中小企業に成長資金を呼び込むにあたっての対応策



インタビュー対象者

対象者		対象者数
LP投資家		8
LPS運営会社(国内GP)		18
サービスプロバイダー	ファンドアドミニストレーション(FA)	3
	弁護士・会計士・税理士	7
合計		36

調査実施時期: 2024年9月～2025年3月

LPSに関するマーケットの声

税に関連する課題

税以外に関連する課題

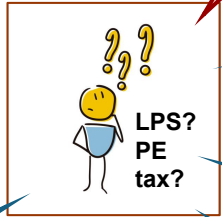
日本のLPSにPE課税が課されるのはおかしい。海外のファンドでは課税はない。
⇒(1)

日本のLPSに関するPE課税の免除特例の適用要件が複雑、厳しすぎる。英語での情報も不足している。QA集の日本語の文章も読解に苦しむ。
⇒(2)

免除特例の適用手続きにも改善の余地がある。
⇒(3)

海外投資、デリバティブ投資などに投資制限があり、柔軟な投資運用ができない。
⇒(5)

日本のLPSの法規制、金商法が難しい。解釈の余地も大きい。日本でのビジネスに、多額のリーガルフィーを払わなければならない。
⇒(4)



海外投資家は、日本特有の法律、これを受けたLP契約書のひな型を理解できない。
⇒(6)

海外投資家にLPSの説明ができない。海外投資家向けに、外国籍ファンドをわざわざ用意しなければならない。
⇒(4)

LPSは、組成から運用開始まで時間がかかる。ケイマンだと、事前にNominee投資家と組合を組成できるため、直ちに投資運用が可能。
⇒(7)

LPSは、所轄官庁が複数にまたがるため手続き煩雑、どちらを見ながら仕事をすればいいかわからない。
⇒(4)

LPS法は、中小企業支援が背景目的。投資を目的としたグローバルプロトコルとは異なり、海外投資家にはなじまない。
⇒(4)

日本特有の会計基準(取得評価や日本基準での財務報告)は受け入れられない。
⇒(8)

LPSの課題と解決策の提案

	課題(投資家の「声」)		提案(投資家からの要望)
税 関 連	(1) 原則、PE課税適用が課題	<p>直近の主な改正</p> <ul style="list-style-type: none"> 投資割合25%の特例適用要件の判定方法を緩和(2021年) 外国株式、暗号資産、合同会社への投資制限が緩和(2024年) JGAAPにおいても、投資の評価は公正価値が原則に(2025年) 	海外投資家LPに対するPE課税の撤廃
	(2) PE課税の免除特例適用要件が厳格		PE課税の特例適用要件を緩和
	(3) PE課税の免除特例手続が煩雑		PE課税特例適用の申請・届出手続の簡素化
そ の 他	(4) LPS関連法規制が複雑		VCのための新しい法規制の導入
	(5) 投資対象の制限		投資対象制限の撤廃
	(6) LPSモデル契約書が日本独特、理解が困難		LPSモデル契約書の見直し
	(7) 組合設立から運用開始までのプロセスの柔軟性のなさ		Nominee投資家によるLPS組成
	(8) 国際基準と乖離した会計基準		IFRS等、グローバルスタンダードの採用

Tokyo Sustainable Finance Week実施事業 1/3

- Tokyo Sustainable Finance Weekは、東京都及び金融庁と連携して実施
- サステナブルファイナンスフォーラムは開催5回目(10/4)(2020年～)
- 中堅・中小企業向けセミナー(10/11)は初開催し、金融機関・事業者の実務レベルでの取組を紹介



東京ーロンドン
グリーンファイナンスセミナー2024



東京・サステナブル・ファイナンス・フォーラム



中堅・中小企業向けサステナビリティ経営促進セミナー

開催日	イベント名	申込者数	参加者数	参加率 (%)	会場参加者数	オンライン参加者数	ネットワーキング	視聴回数	アンケート
2024年10月4日(金)	Tokyo Sustainable Finance Forum 2024	1033	593	57.4	195	398	79	391	92
2024年10月11日(金)	中堅・中小企業向けサステナビリティ経営実践セミナー	457	266	58.2	75	191	55	160	70

主な成果

- 国内外金融機関向けのサステナブルファイナンスイベントとして定着しつつある
- 地域金融機関と中堅・中小企業の取組紹介及び知見の共有が好評

課題及び2025年度に向けて

FCT会員企業のネットワークやロードショーでのリレーションを活かし、次の登壇や参加へ繋げていくことが必要

項目	内容
事業名	Tokyo Sustainable Finance Forum 2024
開催日	2024年10月4日(金)13:00-19:30
開催形式	ハイブリッド開催(会場参加/オンライン参加)
言語	日本語、英語 ※同時通訳あり
参加費	会場参加、オンライン参加、ともに無料(事前登録制)
会場	KABUTO ONE HALL&CONFERENCE
後援	PRI(Principles for Responsible Investment:責任投資原則) / 金融庁 / 金融経済教育推進機構(J-FLEC) / 一般社団法人国際資産運用センター推進機構(JIAM) / 一般社団法人全国銀行協会 / 一般社団法人投資信託協会 / NPO法人日本FP協会 / 一般社団法人日本CFA協会 / 一般社団法人日本投資顧問業協会 / 株式会社日本取引所グループ / 公益社団法人日本証券アナリスト協会 / 日本証券業協会 / The Alternative Investment Management Association (AIMA)



1004フォーラム

	2024年度・申込者	2023年度	2022年度	2024年度・参加者	2023年度	2022年度
現地	1033	1027	786	593	487	479
オンライン	398	303	※オンラインのみ	195	156	※オンラインのみ
前年比	635	707	786	398	331	479
	0.58%	30.66%	-	21.77%	1.67%	-

※参加形式無回答17名

Copyright©2025 FinCity.Tokyo all rights reserved

項目	内容
事業名	中堅・中小企業向け サステナビリティ経営実践セミナー
開催日	2024年10月11日(金)13:30~18:45
開催形式	ハイブリッド開催(会場参加/オンライン参加)
言語	日本語
参加費	会場参加、オンライン参加、ともに無料(事前登録制)
会場	KABUTO ONE HALL&CONFERENCE
後援	PRI(Principles for Responsible Investment:責任投資原則) / 金融庁 / 金融経済教育推進機構(J-FLEC) / 一般社団法人国際資産運用センター推進機構(JIAM) / 一般社団法人全国銀行協会 / 一般社団法人投資信託協会 / NPO法人日本FP協会 / 一般社団法人日本CFA協会 / 一般社団法人日本投資顧問業協会 / 株式会社日本取引所グループ / 公益社団法人日本証券アナリスト協会 / 日本証券業協会 / The Alternative Investment Management Association (AIMA)



実績	2024年度	2023年度(都主催)
現地参加	75人	57人
オンライン参加	191人	58人
合計	266人	115人



中堅・中小企業向け「サステナビリティ経営促進セミナー」
令和5年10月17日(火曜日)午後3時30分から午後6時00分まで

主な成果

- 新NISA制度の開始や退職金の税制見直しなど幅広い世代で金融リテラシーへの関心が向上

- 若者向け金融セミナー(学生、新社会人等)

① 9/28 昨年度653名→**324**名

② 10/19 昨年度249名→**127**名

③ 11/27 今年度初開催 **228**名

④ 2/1 昨年度857名→**699**名

- シニア(50代・60代)向けセミナー

⑤ 2/18 今年度初開催 **560**名



課題及び2025年度に向けて

- 若者向けセミナーは集客に苦戦。**ターゲットやコンテンツを絞り、他社イベントと競合しない独自の内容が必要**
- シニア向けセミナーは今年度初開催であったが、ターゲットとコンテンツを絞った結果盛況。**実施回数、内容の深堀**(具体的なnext actionの提示)を検討

開催日	主な対象	イベント名	申込者	参加者	参加率	視聴数	コメント	クイズ投票	アンケート
2024年 9月28日(土)	初心者	若者向け金融セミナー 資産形成のための投資デ ビュー編 ※オンラインのみ	789	324	41.1%	391	720	256	324
2024年 10月19日(土)	中級者	若者向け金融セミナー 資産形成のための投資ス テップアップ編 ※オンラインのみ	805	127	15.8%	160	460	389	345
2024年 11月27日(水)	大学生	若者向け金融セミナー 就活に役立つ金融知識編	338	228	67.5%	155	162	-	45
2025年 2月1日(土)	未経験者	若者向け金融セミナー 私たちの将来のお金編	1265	699	55.3%	629	846	1007	524
2025年 2月18日(火)	50-60代	50・60代向け金融セミナー 退職後のお金について考え る編～ライフプランと資産形 成を見直そう～	1273	532	41.8%	556	444	632	512

2023年9月23日（土）

	申込者	前年比	参加者	前年比	参加率	前年比
若者向け1回目	1319	56.1%	653	81.9%	49.51%	16.5%
会場	-	-	-	-	-	-
オンライン	1319	56.1%	653	81.9%	49.51%	16.5%

2023年10月28日（土）

	申込者	前年比	参加者	前年比	参加率	前年比
若者向け2回目	1482	83.4%	249	74.1%	16.80%	-5.1%
会場	-	-	-	-	-	-
オンライン	1482	83.4%	249	74.1%	16.80%	-5.1%

2023年11月18日（土）

	申込者	前年比	参加者	前年比	参加率	前年比
若者向け3回目	2700		857		31.74%	
会場	365	-	169	-	46.30%	-
オンライン	2335	96.1%	688	91.6%	29.46%	-2.2%

2022年9月10日 (土)

	申込者	前年比	参加者	前年比	参加率	前年比
若者向け1回目	845	-%	359	-%	42.49%	-%
会場	-	-	-	-	-	-
オンライン	845	-%	359	-%	42.49%	-%

2022年11月12日 (土)

	申込者	前年比	参加者	前年比	参加率	前年比
若者向け2回目	808	-%	143	-%	17.70%	-%
会場	-	-	-	-	-	-
オンライン	808	-%	143	-%	17.70%	-%

2023年1月14日 (土)

	申込者	前年比	参加者	前年比	参加率	前年比
若者向け3回目	1191	-%	359	-%	30.14%	-%
会場	-	-	-	-	-	-
オンライン	1191	-%	359	-%	30.14%	-%

その他の活動 代表理事の主な活動

主な活動・成果

- 「東京の将来を考える懇談会」における講演(4/12):東京商工会議所内の同懇談会に対して、東京の都市課題を金融の観点から解決するための取組について講演
- ABAC香港会議への参加(4/22~4/25):APECビジネス諮問委員会の委員および金融タスクフォースの議長として、金融から地域の社会課題解決のために貢献する議論を推進
- Lord Mayor of the City of Londonとの東京での面談(5/29~5/31)
- QUICK社イベントへの登壇(7/19):「グローバル投資家との新たな対話:英文情報とサステナビリティ情報開示の重要性」に登壇し、弊機構事業であるDisclosure Gについても言及
- ABAC東京会合のホスト(8/1~8/4):8月に開催されたABAC東京会合では、APAC地域のビジネス界の要人を相手にしたプロモーションを展開し、翌年1月にもフォローアップのイベントを開催
- Japan Weeksにおける各種イベントの登壇:以下のようなイベントで登壇し、弊機構のミッションについて発信
 - Fall 2024 AIF APAC INVESTORS' SYMPOSIUM 登壇 (9/27)
 - MUFG サステナブル投資シンポジウム 登壇 (10/4)
 - FIA Forum Tokyo 2024 登壇 (10/10)
 - WAIFC AGM in Tokyo-Welcome Speech (10/15)
- FinCity Global Forum/Tokyo Asset Management Forumへの登壇:弊機構の旗艦イベントである両イベントに登壇し、現下の国際経済の動向と東京の国際金融センターの役割について議論・発信



ABAC東京会合



ABAC東京会合
ウェルカムレセプション



Tokyo Asset Management Forum



FinCity Global Forum

その他の活動 専務理事の主な活動

- Private gathering with David Siegel and Kenny Lam, Co-founder and Asia CEO of Two Sigma(4/24)
- Bloomberg主催のイベントでJapan Marketについて講演 (5/15)
- B Capital / Deloitteベンチャーサポートイベント登壇(8/7)
- 日本コーポレート・ガバナンス・ネットワーク イベント登壇(9/6)
- 日本経済新聞社「国際金融フロンティア」パネルセッション 登壇 (10/8)
- Global Venture Capital Congress (GVCC) Japan/Tokyo 2024シンポジウム (10/29)
- Metzler Bank 350周年レセプション (11/8)
- Paris Europlace Financial Forum (11/21)
- Reception with Frankfurt Main Finance (11/21)
- Tokyo Financial Street出演(12/24)
- A workshop on AI's geopolitical implications sponsored by Two Sigma (3/27/2025)
- LPSに関する政策提言に向けた市場関係者インタビュー(随時)
- 会員候補企業との面談(随時)
- WAIFC関連
 - Enhancing the Supply Chain Finance for the promotion of Green TransformationをEditor in Chiefとして発行 (5/9)
 - Art as an integral ingredient of financial centersをEditor in Chiefとして発行 (5/19)

WAIFC(World Alliance of International Financial Centers)

- 設立年
2018年 (<https://waifc.finance/>)
- 法人登記地
ブラッセル
- 設置目的
各金融センター相互の交流のあり方を整理し、協力、ベストプラクティスの交換及び企業と投資家の中間に立つ金融業界が経済成長に直接貢献できるかについてのコミュニケーションを促進すること
- 加盟機関(各都市にて金融プロモーション機能を担う機関)※As of November, 2024
メンバー:22団体、オブザーバー:7団体
- 理事
メンバーである各団体から1名選出

当法人は、2020年3月にWAIFCに参画し、同年5月に当法人専務理事有友圭一を理事に輩出。以降、WAIFCが開催する理事会等への参画を介して、定期的に各国金融都市との情報交換に務めてきた。また、2023年1月からは有友専務理事がWAIFC理事長を務めた(2024年12月まで)。

2024年度は、10月に当法人の運営の下、東京で年次総会を開催し、各金融センターとの意見交換等を通じ連携を深めた。一方、加入から4年以上が経過し、WAIFC加入の目的を達成するとともに、会員として一定の役目を果たしたと考えられることから、2024年末をもってWAIFCを脱退することとした。

なお、WAIFC加盟を通じて構築することができた各国金融プロモーション組織とのネットワークは引き続き維持・活用するとともに、当法人の国際的なプロモーション、イベント等における連携・協力関係についても今後も継続し、国際金融都市・東京の魅力、取組等を発信していく。

WAIFC Annual General Meeting tour in Japan

日 程:2024年10月15日(火)~18日(金) 出席者:東京50名、大阪31名、福岡23名

10月14日	東京	Welcome Dinner
10月15日	東京	<ul style="list-style-type: none"> ● 中曽代表理事による歓迎の挨拶 ● 札幌市関係者(国際金融都市関連)によるプレゼンテーション ● WAIFC 及び FCT理事等を交えたNetworking lunch ● WAIFC 年次総会 ● 「Women in Finance Project」プロジェクトミーティング ● WAIFC イベント「Art & Finance」及び「Young Academic Award」 ● Networking Cocktail Reception
10月16日	東京	<ul style="list-style-type: none"> ● 「Talent Publication」プロジェクトミーティング ● WAIFCイベント「African Roundtable」(Japan Weeksの一環として) ● 東京証券取引所見学 ● ウズベキスタン投資フォーラム
10月17日	大阪	<ul style="list-style-type: none"> ● 大阪府・市 関係者及びWAIFC関係者によるラウンドテーブル ● 大阪府 吉村知事による歓迎の挨拶 ● 在阪スタートアップ代表者とのNetworking lunch ● 大阪府議団との意見交換 ● Nakanoshima Qross見学
10月18日	福岡	<ul style="list-style-type: none"> ● 福岡県 服部知事との面会及び意見交換 ● Fukuoka Growth Next見学 ● Fukuoka Art Next (Art Startup)見学

WAIFC 年次総会（東京日程）

- 東京の金融センター関係者およびWAIFC関係者との意見交換等を通じて、知見共有およびネットワーキングを実施
- 金融都市におけるアートの重要性や、日本の投資家によるアフリカ投資トレンドなどを議論
- 札幌市の国際金融都市構想担当者との面談も実施



WAIFC 年次総会（大阪・福岡日程）

- 大阪・福岡の金融センター関係者およびWAIFC関係者との意見交換等を通じて、知見共有およびネットワーキングを実施
- 大阪府、福岡県も訪問し、吉村大阪府知事、服部福岡県知事と面談、意見交換を実施



WAIFC membershipに関する振り返りと今後の対応

振り返り

- 当初、海外金融都市との繋がりが十分でなかったことから、各都市とのネットワーク構築、情報収集等を目的としてWAIFCに加盟
- 世界的な新型コロナウイルスの感染拡大により各都市と密なコミュニケーションを図ることが困難であったことから、各都市との関係の深化を目的に会員としての活動を継続してきた。

- 加入から4年以上が経過し、年次総会等での交流の機会を重ねることで、各都市との関係を構築することができた。
- コロナの感染収束後はWAIFCの枠組みがなくとも、海外ロードショー等を通じ個別に各都市とコミュニケーションを図り、関係を深められるようになった。
- 今年、WAIFC年次総会を東京で開催し、FCTはホストを務め、会員としての役割を果たすことができた。

今後の対応

- **WAIFC加入の目的を達成するとともに、会員として一定の役目を果たしたことから、2024年末をもってWAIFCを脱退する。**
- WAIFC加盟を通じて構築することができた各国金融プロモーション組織とのネットワークは引き続き維持・活用していくこととする。
- FCTの国際的なプロモーション、イベント等における**連携・協力関係についても今後も継続し、金融都市・東京の魅力、取組等を発信していく。**

JIAMが開催したイベントで当法人が後援したもの

- **LP Investor Roundtable in Osaka(JIAM主催)**
大阪・関西を拠点とするLP投資家コミュニティの形成、EMP(新興資産運用業者の活用)に対する、さらなる認知向上及び大阪・関西を拠点にするLP投資家の大阪金融都市構想への認知向上を目的として投資家ラウンドテーブルが開催された。
- **なぜ、4都市に国際金融センターが必要なのか？各都市の役割と現在地を語る(JIAM・札幌市共催)**
各都市(札幌、東京、大阪、福岡)が「何故、その都市に国際金融機能が必要なのか？」について語るとともに、各都市のキーパーソンと今後の国産金融都市構想の行方や具体的なアクションに関して議論するラウンドテーブルが行われた。
- **投資家ラウンドテーブル at 福岡(JIAM主催)**
金融・資産運用特区が制定されるなど、資産運用の拡大・多様化に注目が集まっている中、同特区に指定された4都市・地域(札幌、東京、大阪、福岡)では、資産運用会社や海外スタートアップ企業誘致を積極的に行っており、その原資を提供するアセットオーナーの動向は、上記の動きを左右する大きな鍵となると考えられることから、福岡を中心とする西日本における投資家コミュニティの形成を目的としてラウンドテーブルが開催された。

その他の活動 イベントへの登壇等 1/2

- 2024年9月27日(金)17:30-18:00放送 ストックボイスTV
「Tokyo Financial Street」に 東海林美咲(当法人マネージャー)が出演
兜町スタジオからマーケットの最新情報とトピックを共有する番組
当法人の紹介及びイベントの告知を実施
視聴ページ:[Youtube](#)
- 2024年10月3日(木)13:40-14:30@虎ノ門ヒルズフォーラム
第一回資産運用フォーラム年次会合
主催:資産運用フォーラム委員会(金融庁・Bloomberg)
パネルディスカッション「EMPの振興」モデレータに竹腰尚美(当法人シニアマネージャー)が登壇
EMの必要性、金融機関にとっての利点等をテーマに議論を展開
詳細:[ウェブサイト](#)
- 2024年10月3日(木)14:00-17:30@WHITE & CASEオフィス
「Connecting Japanese GPs with Global Investors」:Exploring Today's Investment Schemes and Tomorrow's Opportunities 日本の運用者と海外投資家市場を繋ぐ
～今日の投資スキームと明日の可能性を考える～
主催:DBS、LanghamHall、WHITE & CASE
開会挨拶(Opening Remarks) に大山智子(当法人事務局次長)が登壇
詳細:[ウェブサイト](#)



Tokyo Financial Street



資産運用フォーラムパネルディスカッション



Connecting Japanese GPs with Global Investors

その他の活動 イベントへの登壇等 2/2

- 2025年2月28日(金)18:00-20:30@KABUTO ONE
「ESG WOMEN's AWARD」
主催:ESG WOMEN's AWARD委員会
(エグ株式会社/株式会社きんゆう女子/株式会社READY NOW)
パネルディスカッションに飛田亮(当法人事務局次長)が登壇
国・東京都・当法人の女性活躍に関する取組等を紹介
詳細:[ウェブサイト](#)
- 2025年3月4日(火)13:35-14:10@東証ホール
「GFTN Forum Japan 2025」
主催:GFTN Japan
パネルディスカッション「The Evolution of Asset Management」モ
デレータに竹腰尚美(当法人シニアマネージャー)が登壇
日本の資産運用立国政策やETF市場の取組、IFC AMCによる東京での
展開について議論を展開
詳細:[ウェブサイト](#)



ESG WOMEN's AWARD

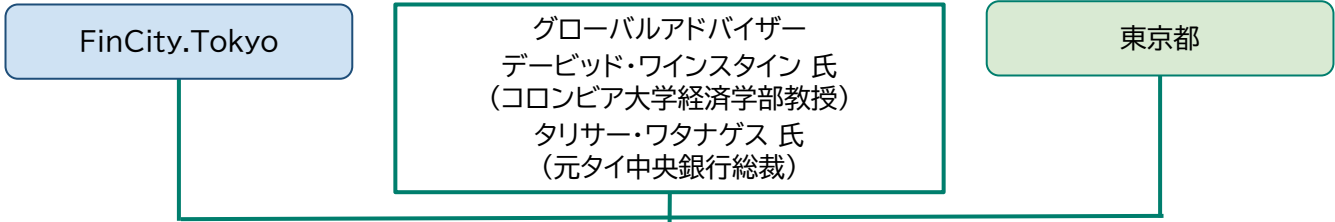


GFTN Forum Japan

東京都との共同推進プロジェクト 1/7

共同推進プロジェクト

東京の国際金融都市としてのプレゼンスを更に向上させるため、東京都と当法人が連携した取組を一層強化する観点から、有識者を交え、東京都と当法人が共同で国際金融都市・東京の実現に資するプロジェクトを検討・推進するための体制を構築することとした。この体制の中で、「サステナブルファイナンス」、「資産運用」、「金融デジタイゼーション」、「プロモーション」といった分野ごとに、取組の方向性等について、幅広い議論を行った。



※当法人理事・監事

サステナブルファイナンス	資産運用	デジタイゼーション	プロモーション
<ul style="list-style-type: none">・吉高 まり 氏 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社フェロー・橋爪 麻紀子 氏 日本総合研究所創発戦略センターシニアマネジャー・福島 隆則 氏 三井住友トラスト基礎研究所 PPP-インフラ投資調査部 部長(理事)・原田 文代 氏※ 日本政策投資銀行常務執行役員・鈴木 由里 氏※ 渥美坂井法律事務所シニアパートナー弁護士	<ul style="list-style-type: none">・大関 洋 氏 ニッセイアセットマネジメント社長・大槻 奈那 氏 国家戦略特区諮問会議議員 ピクテ・ジャパン(株)シニア・フェロー・猿田 隆 氏 三井住友DSアセットマネジメント社長・阪口 和子 氏※ アライアンス・バーンスタイン代表取締役社長・服部 経治 氏※ Brookfield Japan 代表取締役 マネージングディレクター・清水 毅 氏※ 投資信託協会チーフ・リサーチ・オフィサー 公認会計士・鈴木 由里 氏※ 渥美坂井法律事務所シニアパートナー弁護士	<ul style="list-style-type: none">・瀧 俊雄 氏 株式会社マネーフォワード グループ 執行役員 CoPAFinTech 研究所長・落合 孝文 氏 Fintech協会・渥美坂井法律事務所・白石 陽介 氏 デジタルフェロー ARIGATOBANK 代表取締役 CEO・丸山 弘毅 氏 Fintech協会・㈱インキュリオン・富田 秀夫 氏※ LSEG日本代表	<ul style="list-style-type: none">・山岡 浩巳 氏 チーフ国際金融フェロー フューチャー株式会社取締役 グループ CSO・坂本 誠太 氏※ QUICK常務執行役員・富田 秀夫 氏※ LSEG日本代表・中尾 友治 氏※ 執行役常務・吉田 正紀 氏※ 日本取引所グループ執行役・清水 毅 氏※ 投資信託協会チーフ・リサーチ・オフィサー 公認会計士・鈴木 由里 氏※ 渥美坂井法律事務所シニアパートナー弁護士

共同推進プロジェクト テーマ・議題

「サステナブルな社会を実現するアジアのイノベーション・金融ハブ」の実現に向けて取り組むべき施策や解決すべき課題のうち、早期の事業化や政策提言の実施等に向けて優先的に検討すべきものを設定

テーマ	議題
サステナブルファイナンス	国内中小企業のGX促進(カーボンプレジット関連)
資産運用	<ol style="list-style-type: none">1. 海外投資家への上場中小企業の魅力発信強化2. 金融エコシステムにおける女性の活躍機会の拡大
金融デジタルイゼーション	デジタル弱者の金融包摂に向けた取組
プロモーション	国際金融都市・東京の魅力発信強化

サステナブルファイナンス — 国内中小企業の GX促進(カーボンクレジット関連)

【いただいた主なご意見】

- 各国政府や国際機関が管理するコンプライアンス市場を育てていくことが基本である。取組が重複すると事業者は動きにくい。国等との役割分担、棲み分けを見極める必要がある
- 一方、中小企業の取組を進めるためには、民間が主導するボランタリー市場での取引を試行する意義がある。その場合、質や海外との互換性の担保等の課題があり、検証しながら進める必要がある

【来年度の取組の方向性(案)】

- カーボンクレジットの取扱いに関する国の検討会における議論のほか、GXリーグ、Jクレジット、東京都のキャップ&トレード制度等の動きを注視し、FCTイベントで紹介
- ABACが実施する海外との相互運用可能なボランタリー取引の試行の状況や東京都が開設予定の取引市場の動向等を把握し、国等の動きとの整合性、役割分担を図りながら、FCTイベントを通じて普及啓発

資産運用 — 海外投資家への上場中小企業の魅力発信強化

【いただいた主なご意見】

- あまりに小規模な企業は流動性がなく投資対象とならないため、DisclosureGの個別支援の対象外としてよいのではないか
- 国内の上場中小企業には魅力的な企業があるが、国内外の投資家に十分伝わっていない
- 投資家のほか、アナリストにカバーしてもらうための支援も有効ではないか

【来年度の取組の方向性(案)】

- 個別支援の対象とする企業の基準をグローバルな基準(例:時価総額250億円以上1,000億円未満)を参考に再定義
- 企業の魅力を効果的に発信するIR動画の制作を支援するほか、中小企業の優れた取組("Hidden gem")を海外ロードショー等でPR
- スポンサーード・リサーチ(アナリストによる企業情報レポート)の活用など、企業による魅力発信を充実

資産運用 — 金融エコシステムにおける女性の活躍機会の拡大

【いただいた主なご意見】

- 女性だけでなく、ダイバーシティの確保という観点が必要である。前提として、業界の実態の把握・見える化が重要である
- 金融業界を志望する女性が相対的に少ないことも背景にあるのではないか。
- 業界に気付きを与えることが重要である。また、女性同士の情報共有の場、コミュニティ形成支援も必要ではないか

【来年度の取組の方向性(案)】

- 先行研究・好事例や、男女間の年収格差等のデータを収集・分析し、FCTイベントで発信
- 会員大学やJ-FLECなど関係機関と連携し、経済・経営学部以外の学生に対しても寄附講座や講演を通じて金融の仕組み、業界の魅力等をPR
- ロールモデルとなる経営者等を招きFCTイベントで啓発を行うほか、関係団体等と連携し女性が悩みなどを共有できる「サードプレイス」形成を支援

デジタルイゼーション — 「デジタル弱者」の金融包摂

【いただいた主なご意見】

- 高齢者、外国人、子供等の「デジタル弱者」に優しい技術の開発・研究も進んでいるほか、消費者庁でもデジタルを活用した消費者保護が議論されている
- toCでは支援プログラムの認知度向上、toBでは弱者を包摂した技術・サービスの横展開に取り組むべきである
- 技術だけで全ての問題を解決できるわけではなく、人を介した支援(後見、介助等)も必要である

【来年度の取組の方向性(案)】

- 新技術・サービスや国での議論状況について情報収集し、高齢者を支える**子供・孫世代などをターゲット**としたFCTイベントを通じて普及啓発
- 韓国や台湾など、日本同様に**金融デジタルイゼーションが進展している国へのロードショー**等で好事例を収集し、FCTイベントで紹介
- 町内会など**地域コミュニティによる包摂事例**等をFCTイベントで普及啓発

プロモーション — 国際金融都市・東京の魅力発信強化

【いただいた主なご意見】

- 国内マクロ経済の状況、地政学上のリスク等を踏まえ、東京にビジネス機会があること、東京の強み、魅力を発信すべき
- 海外での継続的な関係構築に繋げる取組に加え、国際会議誘致など東京に来た海外金融関係者へのプロモーションも効果的である
- FCTホームページやSNSの効果的な活用のほか、会員間連携による情報発信の強化に取り組んではどうか

【来年度の取組の方向性(案)】

- 海外ロードショー等で東京の強み、魅力を発信するほか、**課題等に関する国内外からのフィードバック・知見を獲得し、政策提言等に反映**
- **海外現地メディアとの関係強化**のほか、投資家など海外金融関係者が集う**国内イベント等の機会を捉えた活動**を実施
- **HP改修、YouTubeショート動画等を活用したタイムリーなSNS発信**に取り組みるとともに、**会員間ラウンドテーブル等のイベント**を実施

目的

- SusHi Tech Tokyo 2025(5月8日～10日)はアジア最大のスタートアップカンファレンス
- VCを中心とした投資家とのセッション等はあるが、ファミリーオフィス(FO)の接点はほとんどない
- FCTがセッションに参加。日本ではまだ馴染みのないFOによるSU投資戦略について紹介
- ロードショー等プロモーション活動を通じて接点を持ったFOを中心にご登壇の声掛け

セッション(案)

- トピック:”How Family offices can ignite investments in startups in Japan”
- 登壇者: [Takaoka, incubation partner, University of Tokyo](#)
[Kay Makishi - Vice President, Lupoff/Stevens Family Office LLC | LinkedIn](#)
[Keiko Sydenham, CEO / Co-Founder at LUCA, Japan Co., Ltd.](#)
[Brandon C. Ge, a counsel in Crowell & Moring's Washington, D.C. office](#)
- 質問 :1. What are family offices ? Can you describe your investment activities and how you are different from a VC?
2. What investment opportunities do you see in Japan?
3. What needs to be done to get people like yourselves to be more active in Japan?

国内外の関係機関による賛同を獲得し、正会員・賛助会員等の拡大を推進

2024年度中に会員9社が新規加入(内訳:正会員3社、賛助会員2社、新興企業会員4社)した。退会した会員と合わせると、会員数は2024年度末時点で53社となった。

会員数の内訳は、正会員18社、賛助会員24社、新興企業会員7社、特別会員4社である。

種類	2023年度末	2024年度末	増減
正会員	18社	18社	0社
賛助会員	27社	24社	-3社
新興企業会員	5社	7社	2社
特別会員	4社	4社	0社
合計	54社	53社	-1社

当法人の機能強化と関係機関の連携推進

事務局機能の強化に向けては、東京都からの出向職員を4名、日本取引所グループからの出向社員を1名増員した。また、資産運用分野やフィンテック分野の専門家6名(シニアアドバイザー2名を含む)の知見を活用し、国際金融都市・東京の魅力の発信や金融系外国企業の誘致活動を実施した。さらに、昨年度に引き続き、EMPシニアアドバイザーの石田英和氏による専門的立場からのEMP事へのアドバイス等を活用するなど、積極的に専門家と連携して事業を進めた。

情報発信機能の強化に向けては、昨年度に引き続き当法人のアンバサダーにイベント登壇やSNSでの発信等において協力を得た。具体的には、海外メディアとのラウンドテーブル(2024年7月、イエスパー・コール氏)、マイアミで開催した当法人登壇イベント(2025年1月、デービッド・セマイヤ氏)、FinCity Global Forum(2025年1月、イエスパー・コール氏)等の機会を通じ、日本市場の動向や当法人の取組等を発信していただいた。また、チャン・リー氏からは、東京進出に関心を持つ複数の海外フィンテック企業の紹介を受けた。アンバサダーの専門的知見や自らの経験を踏まえた発信は、国際金融都市・東京及び当法人の認知度・発信力の向上に大きく寄与している。

2024年度当法人アンバサダー

デービッド・セマイヤ氏	三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社代表取締役会長
イエスパー・コール氏	カタリスト投資顧問株式会社シニア・グローバル・アドバイザー
チャン・リー氏	一般社団法人Fintech協会理事、株式会社hokanエグゼクティブ・アドバイザー

重要な契約に関する事項

理事会承認を得た重要な契約は以下のとおり。(*印は利益相反取引の事後承認)

契約年月日	相手方	契約金額	契約期間	契約の概要
2022年9月12日*	リフィニティブ・ジャパン株式会社	213,180円/社 (標準的な調査内容の場合、消費税込み)	契約の日から2年間	信用調査委託基本契約
2023年8月10日*	リフィニティブ・ジャパン株式会社	1,056,000円 (消費税込み)	契約の日から1年間	企業信用情報データベース利用契約
2024年6月28日	理事(非常勤)	—	任期期間	責任限定契約
2024年9月30日	東京海上日動火災保険株式会社	259,590円 (消費税込み)	契約の日から1年間	会社役員賠償責任保険
2024年9月25日	リフィニティブ・ジャパン株式会社	241,395円/社 (標準的な調査内容の場合、消費税込み)	契約の日から1年間	信用調査委託基本契約
2024年12月23日	理事(非常勤)	—	任期期間	責任限定契約

当法人の2024年度末現在の会員数は、次の表に掲げるとおり正会員18社、賛助会員24社、新興企業会員7社、特別会員4社である。

種類	2023年度末	2024年度末	増減
正会員	18社	18社	0社
賛助会員	27社	24社	-3社
新興企業会員	5社	7社	2社
特別会員	4社	4社	0社
合計	54社	53社	-1社

(再掲)

会員に関する事項 2/4 正会員一覧(2025年3月31日時点)

正会員 18社

1	アライアンス・バーンスタイン株式会社	11	ニューホライズン キャピタル株式会社
2	LSEG	12	野村ホールディングス株式会社
3	株式会社かんぽ生命保険	13	平和不動産株式会社
4	株式会社QUICK	14	株式会社みずほ銀行
5	株式会社大和証券グループ本社	15	株式会社三井住友銀行
6	東海東京フィナンシャル・ホールディングス株式会社	16	三井住友トラストグループ株式会社
7	東京都	17	株式会社三菱UFJ銀行
8	日本証券業協会	18	モルガン・スタンレー・ホールディングス株式会社
9	株式会社日本政策投資銀行		
10	株式会社日本取引所グループ		

会員に関する事項 3/4 賛助会員一覧(2025年3月31日時点)

賛助会員 24社

1	アセットマネジメントOne株式会社	13	DBS Bank (Hong Kong) Limited
2	アフラック生命保険株式会社	14	一般社団法人投資信託協会
3	渥美坂井法律事務所弁護士法人	15	ナティクシス日本証券株式会社
4	SS&C Fund Services (Asia) Limited	16	株式会社日本資産運用基盤グループ
5	エバコア・ジャパン株式会社	17	日本生命保険相互会社
6	クレアブ株式会社	18	農林中央金庫
7	KPMGコンサルティング株式会社	19	株式会社野村総合研究所
8	株式会社時事通信社	20	PwC Japan合同会社
9	シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社	21	フィデリティ投信株式会社
10	ソシエテ・ジェネラル証券株式会社	22	三井不動産株式会社
11	短資協会	23	森ビル株式会社
12	Two Sigma Japan, Ltd.	24	LEMANIK ASSET MANAGEMENT S.A.

会員に関する事項 4/4 新興企業会員・特別会員一覧(2025年3月31日時点)

新興企業会員 7社

1	INCITE Consulting株式会社
2	FNZ Japan株式会社
3	株式会社Diagonal
4	De Capital株式会社
5	株式会社トレードワルツ
6	Visual Alpha株式会社
7	LUCAジャパン株式会社

特別会員 4社

1	上智大学
2	国立大学法人 東京大学
3	東京都立大学
4	東京理科大学

職員に関する事項

今年度末の事務局の要員は、事務局長以下、他の機関等からの出向職員及び派遣社員等を含み総勢12名。主要な職員は以下のとおり。

職名等	氏名	就任年月日	担当事務
事務局長	増田 剛	2023年7月1日	事務局業務全般
事務局次長	飛田 亮	2024年4月1日	総務事務総括
事務局次長	大山 智子	2024年7月1日	事業総括

役員会等に関する事項 理事会

開催(同意)年月日	議事事項	会議の結果
2024年5月28日	<p>【決議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2024年度金融系外国企業発掘・誘致事業 事業者選定の件 2. 2024年度一般向け金融セミナーに係る補助金事業 事業者選定の件 3. 2024年度海外メディアを活用した認知度向上施策の実施に係る補助事業 事業者選定の件 	いずれも可決
2024年6月6日	<p>【決議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2023年度事業報告書及び計算書類の承認の件 2. 会員入会可否決定の件 3. 2024年度第1回社員総会招集の件 4. 責任限定契約の件(第3号議案に係る社員総会決議の停止条件付) 5. 理事が取引の相手方代理人である取引の承認及び報告の件 <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代表理事及び専務理事の職務の執行状況 2. 第1回コンプライアンス委員会の活動状況 3. 誘致事業のあり方に関する理事・監事ヒアリングの結果 4. 利益相反に係るFCT規程の運用指針(仮)の検討 5. 個別事業進捗 	いずれも可決
2024年9月12日	<p>【決議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. D&O保険の付保の件 2. 会員入会可否決定の件 3. 理事が取引の相手方代理人である取引の承認の件 <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代表理事及び専務理事の職務の執行状況 2. 東京都との「共同推進プロジェクト」の進捗状況 3. 利害関係者との取引に係るFCT規程の運用指針の検討状況 4. 2022年度金融系外国企業発掘・誘致事業に係る改善措置状況 5. 個別事業進捗 	いずれも可決

役員会等に関する事項 理事会

開催(同意)年月日	議事事項	会議の結果
2024年12月12日	<p>【決議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会員入会可否決定の件 2. 社員総会決議事項に係る提案書の件 3. 責任限定契約の件(第2号議案に係る社員総会決議の停止条件付) 4. World Alliance of International Financial Centers (WAIFC) 脱退の件 5. 利益相反取引及び利害関係者取引に係るFCT規程の運用指針策定の件 <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代表理事及び専務理事の職務の執行状況 2. 東京都との「共同推進プロジェクト」の進捗状況 3. EM Showcaseにおける候補EMの報告 4. 理事が取引の相手方代理人である取引の報告 5. 個別事業進捗 	いずれも可決
2025年3月10日	<p>【決議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2025年度事業計画書及び収支予算書の承認の件 2. 会員入会可否決定の件 3. 社員総会決議事項に係る提案書の件 4. 責任限定契約の件(第3号議案に係る社員総会決議の停止条件付) <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代表理事及び専務理事の職務の執行状況 2. 個別事業進捗 3. 政策提言(案)日本の投資事業有限責任組合(LPS)における課題 4. 2025年度海外ロードショー計画(案) 	いずれも可決

役員会等に関する事項 理事会

開催(同意)年月日	議事事項	会議の結果
2025年3月24日	<p>【決議事項】</p> <ol style="list-style-type: none">2025年度事業者選定の件(金融系外国企業発掘誘致事業)2025年度事業者選定の件(海外メディアを活用した認知度向上施策実施事業)2025年度事業者選定の件(EMPの普及促進事業)2025年度事業者選定の件(Tokyo Sustainable Finance Week実施事業)2025年度事業者選定の件(都民向け金融セミナー実施事業)会員入会可否決定の件 <p>【報告事項】</p> <ol style="list-style-type: none">Global Asset Owner Surveyの進捗政策提言(案)日本の投資事業有限責任組合(LPS)における課題2025年度海外ロードショーに関するワークショップの開催	いずれも可決

役員会等に関する事項 社員総会

開催(同意)年月日	議事事項	会議の結果
2024年6月28日	【決議事項】 1. 2023年度計算書類の承認の件 2. 理事選任の件 【報告事項】 1. 2023年度事業報告について 2. 2024年度事業計画書及び収支予算書について	いずれも可決
2024年12月23日	【決議事項】 1. 理事(非常勤)選任の件	可決
2025年3月18日	【決議事項】 1. 理事(非常勤)選任の件	可決

対処すべき主な課題

2024年度も積極的に海外プロモーション活動に取り組み、ニューヨーク・ロンドン・シンガポール・ドバイ・アブダビなど、各金融都市へのロードショーを行った。海外投資家から東京への注目が集まっている中、会員企業等との協力の中で各金融センターへのプロモーション活動を実施できたことは、有意義な成果であった。

来年度以降は、より一層東京都、会員企業、関係機関等との連携を強化するとともに、年間計画の下、Tokyo Sustainable Finance WeekやFinCity Global Forumとの連携を図るなど、戦略的にプロモーションを展開していく。また、これまで同様、有望な海外企業の東京進出を後押しするため、個別面談を含めたきめ細やかなフォローアップを行う。

なお、円安や物価高の影響も引き続き無視できない水準であり、諸経費の高騰が見込まれるが、費用対効果の精査を図りながら、プロモーション効果の高いイベント等には積極的に参加し、着実に活動を行っていく。

金融系外国企業誘致事業については、事業の内製化や仮説構築の高度化を進めてきたが、来年度以降も会員企業との連携強化や外部専門人材の登用・活用によって、より一層効果的な事業遂行につなげていく。また、引き続き会員企業等との議論も踏まえながら、国際金融都市・東京の実現に資する、真に誘致すべき企業について考察を深め、東京の金融エコシステムの活性化、高度化に資する企業の発掘誘致活動に取り組んでいく。

当法人の活動には、会員企業の知見、意見を取り入れることが重要であることから、当法人主催イベント等への登壇、ネットワーキングへの参加、政策提言活動への参画など、加入のメリット・インセンティブの明確化、丁寧な説明を通じて、当法人の活動へ賛同する企業を増やし、会員企業の裾野の拡大を図っていくことが必要である。また、既存の会員企業間のネットワーキングイベントの実施などの取組を通じ、より一層の連携強化、関係深化を図り、組織力の向上を図っていく。

2. 役員に関する事項

役員に関する事項 1/2

今年度における当法人の役員(理事及び監事)に関する事項は以下のとおり。

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬の有無	他の法人等の代表状況
代表理事 (会長)	中曾 宏	2023年6月～ 2025年6月	非常勤	有	株式会社大和総研 理事長
専務理事	有友 圭一	〃	常勤	有	—
理事	AVRIL PHILIPPE ALIN	〃	非常勤	無	一般社団法人国際銀行協会 シニア・エグゼクティブ・オフィサー
〃	安地 和之	2024年6月～ 2025年6月	〃	〃	株式会社三井住友銀行 常務執行役員
〃	安東 泰志	2023年6月～ 2025年6月	〃	〃	ニューホライズンキャピタル株式会社 代表取締役会長
〃	飯山 俊康	〃	〃	〃	野村ホールディングス株式会社 執行役副社長
〃	阪口 和子	2024年1月～ 2025年6月	〃	〃	アライアンス・バーンスタイン株式会社 代表取締役社長
〃	坂本 誠太	2023年6月～ 2025年6月	〃	〃	株式会社QUICK 専務執行役員
〃	佐藤 英二	〃	〃	〃	株式会社大和証券グループ本社 取締役 兼 専務執行役
〃	佐藤 理郎	2024年6月～ 2025年6月	〃	〃	三井住友トラストグループ株式会社 執行役常務

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬の有無	他の法人等の代表状況
理事	田村 浩四郎	2023年6月～ 2025年6月	非常勤	無	モルガン・スタンレー・ホールディングス株式会社代表取締役社長
〃	富田 秀夫	〃	〃	〃	LSEG 日本代表
〃	中尾 友治	〃	〃	〃	平和不動産株式会社 執行役常務
〃	服部 経治	〃	〃	〃	Brookfield Japan株式会社 代表取締役 マネージングディレクター、プライベートファンド、日本代表
〃	原田 文代	〃	〃	〃	株式会社日本政策投資銀行 常務執行役員
〃	春名 貴之	2024年12月～ 2025年6月	〃	〃	株式会社かんぽ生命保険 専務執行役
〃	森本 健一	2023年6月～ 2025年6月	〃	〃	日本証券業協会 政策本部共同本部長
〃	吉田 正紀	〃	〃	〃	株式会社日本取引所グループ 執行役
〃	□村 恵一	2023年6月～ 2025年3月	〃	〃	東京都 スタートアップ・国際金融都市戦略室長
監事	清水 毅	2023年6月～ 2027年6月	〃	〃	一般社団法人投資信託協会 チーフ・リサーチ・オフィサー
〃	鈴木 由里	〃	〃	〃	渥美坂井法律事務所・外国法共同事業 シニアパートナー

今年度における当法人の退任した役員に関する事項は以下のとおり。

氏名	退任時の地位	退任日	退任理由
河本 哲史	理事	2024年6月28日	一身上の都合により辞任
野口 謙吾	//	//	//

今年度における当法人の役員の報酬等に関する事項は以下のとおり。

区分	人数	報酬等の総額	備考
理 事	2名	18,000千円	—
監 事	0名	—	—
合 計	2名	18,000千円	—

(注)理事の報酬限度額は、2019年4月25日開催の第1回社員総会において承認された役員報酬等支給規程において、年額1800万円以内と決議されている。

3. 業務の適正を確保するための体制等の整備 についての決議内容の概要

今年度は、業務の適正を確保するための体制等(内部統制システム)の整備についての決議はなされていない。

今年度事業報告には、事業報告の内容を補足する重要な事項は特にないため、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書は作成していない。

以上